

# 万引き被疑者等に関する実態調査分析報告書 (平成 27 年度調査)

---

平成 29 年 2 月

東京万引き防止官民合同会議



## 報告書作成にあたって

今年も引き続き、警視庁において「万引き被疑者等に関する実態調査」を実施した。これは犯行者の視点から万引きの状況を考察することにより、その結果を万引き対策に反映させようとするものである。調査結果から犯行者の生活状況、犯行態様、犯行意識など犯行の原因を探るとともに、標的となった店舗等の問題点を明らかにすることによって今後の万引き対策の参考にするものである。環境犯罪学も指摘するように、犯罪対策において「犯行者の視点」を取り入れることはいまや常識といえよう。

調査結果は、一般的には昨年と同様の傾向がみられた。これによると、少年、成人、高齢者それぞれの被疑者の特徴が明らかになった。少年は依然として計画的に、比較的自宅から離れた犯行場所で、ゲーム感覚で少ない所持金を賄うために夜間敢行している。高齢者は、いつも午前の時間帯に、無計画に近所のスーパーで思いつき食料品を標的にしており、また女性は比較的に高額商品を狙ったりする傾向がある。この中で万引きをした高齢男性の社会的孤立や生きがいの無さが目立つ。この状況はそれぞれの犯行者が抱える問題を個別に解決するだけでなく、社会政策一般としても検討すべきことを示唆しているように思われる。

本年の調査ではとくに犯行抑止要因としての「店員の声かけ」、「警備員の巡回」、「防犯機器の設置」などに主眼をおいて考察した。なぜなら、これらの要因は犯罪を未然に防ぐことができるからである。近年、国内外で未然予防の重要性が指摘されており、万引きにおいても当然必要な観点である。未然に予防できれば、商店等は被害を避けることができるばかりではなく、被疑者やその家族への対応、警察への連絡、書類の作成などの手間に煩わされることもない。また、警察をはじめ刑事司法機関も人的物的資源を節減できるし、さらに重大な事件に資源を振り向けることができる。犯罪の処理に使われているのは、まさしくわれわれの血税であり、国家財政の縮減が叫ばれるこんにち、未然予防の必要性は一段と高まっている。

本調査によると、とくに初犯者に「店員の声かけ」が有効であるとの結果がみられた。初犯を抑止する意味は大きい。近年刑法犯における再犯率の上昇が指摘されるが、初犯において犯行に成功すれば次の犯行のハードルが下がり、再犯、累犯を招くことはこれまでの調査でも明らかであるからである。ましてや高齢初犯が注目される現状からすれば、晩節を汚すことなく高齢者が余生を送ることを社会全体が考えるべきであろう。万引き対策も従来の事後処理を見直し、そもそも万引き自体を事前にふせぐ警備体制を考えるべき時期に来ているように思われる。

守山 正（拓殖大学 政経学部 教授）



## 目 次

### 【万引き被疑者等に関する実態調査（平成 27 年度調査）分析報告書】

1. はじめに -----	1
(1) 分析の目的 -----	1
(2) 万引き認知データ、検挙データ、本分析に用いるデータの比較 -----	2
(3) 分析の方法 -----	7
2. 年齢層・性別に関する分析結果 -----	9
(1) 個人属性 -----	9
(2) 犯行内容・状況 -----	15
(3) 被疑者等の意識 -----	19
3. 「店員の声掛け」等の効果に関する分析結果 -----	27
(1) クロス集計結果 -----	27
(2) 年齢・性別、犯行状況・内容 -----	32
(3) 被疑者等の意識、犯行内容 -----	34
4. まとめと考察 -----	36

### 【万引き被疑者に関する実態調査結果】

第1 調査の概要 -----	39
1 調査の目的 -----	39
2 データ収集方法の見直し -----	39
3 調査期間 -----	39
4 調査主体 -----	39
5 万引き事案の現況(平成 27 年中) -----	40
(1) 万引き認知・検挙件数及び検挙・補導人員 -----	40
(2) 検挙・補導人員占有率の各歳別比較 -----	40
(3) 人口比による世代別検挙・補導人員 -----	41
(4) 検挙・補導人員の男女比 -----	41
第2 調査状況（単純集計・クロス集計） -----	42
1 生活状況 -----	42
(1) 同居者の有無 -----	42
(2) 就労・雇用形態等 -----	42
(3) 交友関係 -----	42
(4) 相談できる人 -----	43

(5) 生活保護受給者	43
(6) 生き甲斐	43
2 犯行態様	44
(1) 犯行を決意した時	44
(2) 犯行地域選択理由	44
(3) 犯行場所（店舗）選定理由	44
(4) 被害品	45
(5) 被害額	45
(6) 被害品の隠匿場所	45
(7) 支払い能力の有無（検挙時の所持金と被害額を基準に算定）	46
3 被疑者の意識	46
(1) 犯行動機・原因	46
(2) 罪の意識	46
(3) 万引きを諦める原因	47
4 被疑者の万引きに対する知識	47
(1) 万引き全件届出の知識の有無	47
(2) 万引きの刑罰の知識の有無	47

# 万引き被疑者等に関する実態調査（平成27年度調査）分析報告書



# 万引き被疑者等に関する実態調査（平成27年度調査）分析報告書

## 1. はじめに

### (1) 分析の目的

本分析では、被疑者等の個人属性（世帯、交友人数、前歴等）、犯行内容や状況（犯行時刻、店舗、被害品等）、被疑者等の意識（犯行理由、罪の意識等）等、さまざまな変数を多変量解析の手法を用いて同時に分析し、万引き被疑者等の特徴を多角的に検討する。分析の主な目的は、万引き被疑者等の以下の特徴を把握することである。

#### ① 年齢層・性別による特徴

- とくに、近年、被疑者が増加している「高齢者層」の特徴

#### ② 「店員の声掛け」等の有効性

- どのような被疑者等に対して、あるいはどのような状況でとくに有効かを、万引き予防の観点から検討

本分析で用いるのは、警視庁の「万引き被疑者等調査システム」に入力された万引き被疑者等の平成27年度のデータ、全719件である。「年齢層×性別」では19才以下の男性が多く、「万引きをあきらめる要因」では「店員の声掛け」(65.6%)、次いで「警備員の巡回」(17.2%)が多い（表1）。

表1 「年齢層×性別」「万引きをあきらめる要因」の単純集計結果

【年齢層 × 性別】	14水準	度数	割合	【万引きをあきらめる要因】	4水準	度数	割合
-19女		38	5.3%	店員声掛け		385	65.6%
-19男		131	18.2%	警備員巡回		101	17.2%
20-34女		51	7.1%	環境その他		54	9.2%
20-34男		60	8.3%	あきらめない		47	8.0%
35-44女		44	6.1%	合計		587	1
35-44男		44	6.1%	欠測値N		132	
45-54女		39	5.4%				
45-54男		36	5.0%				
55-64女		26	3.6%				
55-64男		59	8.2%				
65-74女		44	6.1%				
65-74男		52	7.2%				
75-女		58	8.1%				
75-男		37	5.1%				
合計		719	100.0%				
欠測値N		0					

## (2) 万引き認知データ、検挙データ、本分析に用いるデータの比較

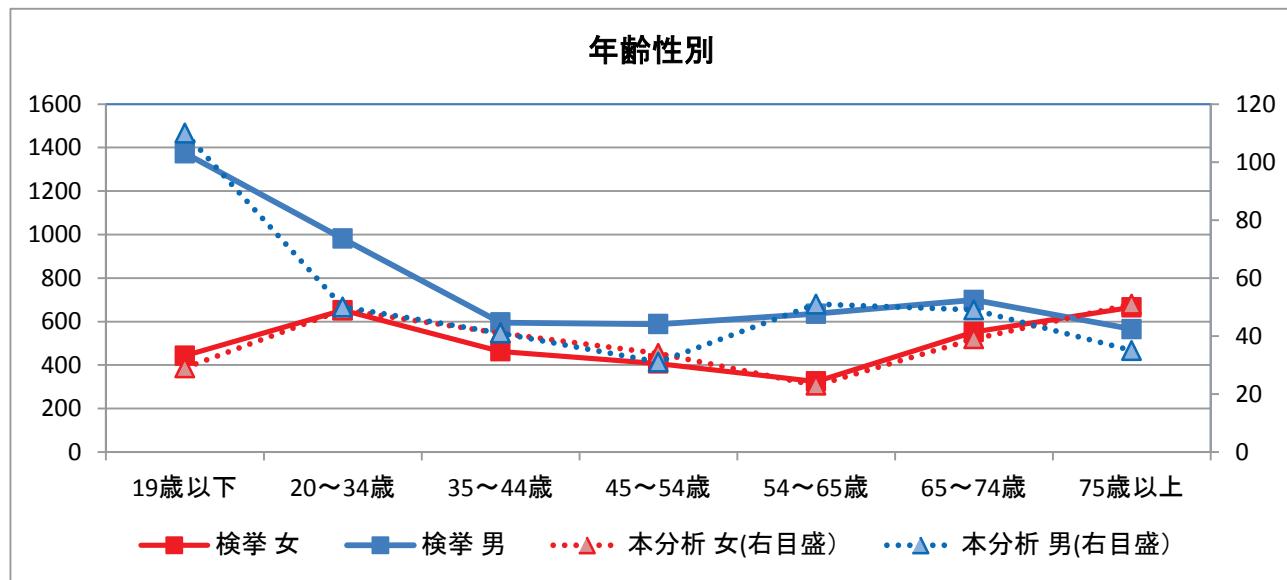
分析に先立ち、万引き認知データ（検挙・未検挙を合わせた約16,000件）、検挙データ（約9,000件）と、本分析に用いるデータ（719件）の比較を行う。

「年齢層×性別」の人数を、「検挙データ」と「本分析に用いるデータ」とで比較したところ、両者のデータ分布はよく似ていることが確認された（図1）。

被害額、および被害品の割合でも、「本分析に用いるデータ」は「検挙データ」とほぼ同じ割合であり、その半数以上が1,000円以下の商品、食料品類であった（図2）。

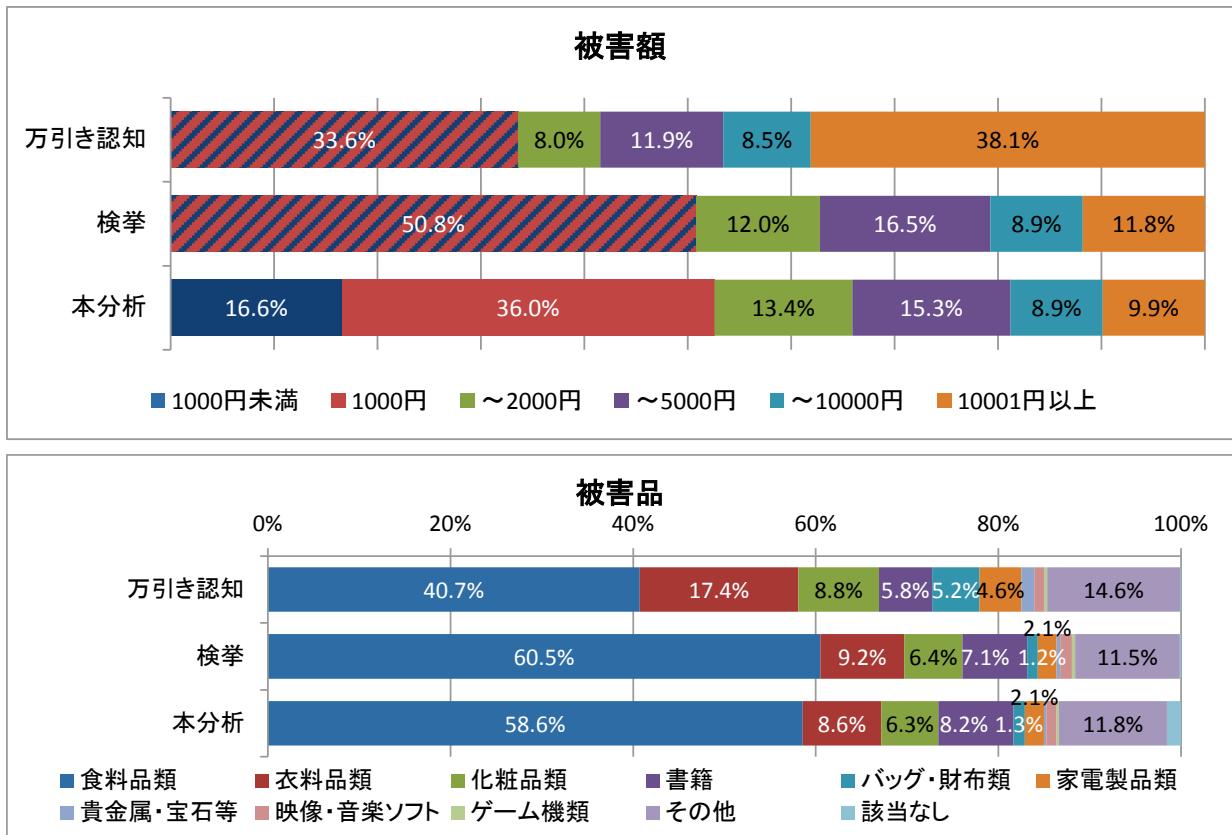
以上より、「本分析に用いるデータ」は、「検挙データ」から大きな偏りなく抽出されていることが分かる。

図1 検挙データ・本分析データの比較（年齢層×性別）



一方、「万引き認知データ」では、高額の商品、具体的には衣料品類、バッグ・財布類、貴金属・宝石等、家電製品類などの割合が他の2データに比べて高く、1,000円以下の安価な商品、とくに食料品類の割合が低い（図2）。「万引き認知データ」と「検挙データ」とで被害品・被害額別に検挙率を比較すると、安価な商品（食料品類）の検挙率が高く、高額の商品では低いことが明らかである（表2）。

図2 万引き認知データ・検挙データ・本分析データの比較（被害額、被害品）



※家電製品類…ビデオカメラ、時計類、カメラ類、パソコン、パソコンソフト、カーナビを含む

※ゲーム機類…ゲームソフトを含む

※その他…文具類、玩具類、雑貨類、その他（美術骨とう品）、その他のカード、その他の機械類、その他の車両用部品、携帯用電話機、建設機械、自転車、タイヤ・ホイール、印紙・切手、彫刻、プリペイドカード、乗車券、絵画、刀剣類、農作物を含む

表2 被害品×被害額の検挙率

	1000円以下	～2000円	～5000円	～10000円	10001円以上	総計	
食料品類	82.2%	84.8%	83.4%	78.4%	33.8%	79.1%	90%
衣料品類	80.9%	73.8%	63.7%	41.9%	14.8%	28.1%	80%
化粧品類	80.6%	88.0%	81.4%	74.6%	12.9%	38.4%	70%
書籍	69.9%	71.4%	76.7%	69.9%	41.6%	65.1%	60%
バッグ・財布類	84.6%	75.0%	41.3%	22.2%	6.7%	11.8%	50%
家電製品類	63.2%	71.4%	58.1%	41.7%	15.0%	24.0%	40%
貴金属・宝石等	0.0%	40.0%	25.0%	31.3%	9.7%	14.4%	30%
映像・音楽ソフト	66.7%	50.0%	88.5%	75.0%	53.2%	63.5%	20%
ゲーム機類	33.3%	—	77.8%	45.5%	46.7%	50.9%	10%
その他	74.1%	69.5%	60.5%	45.3%	14.5%	42.0%	0%
総計	80.5%	80.2%	73.6%	56.3%	16.5%	53.2%	

なお、2015年の「検挙データ」と犯行日の6時～18時の天気概況とを比較したところ、万引きは、「晴れ」(25.0件/日)「曇り」(24.8件/日)の日に比べ「雨または雪」(22.1件/日)の日に少ないことがわかった(図3)。

図3 6～18時天気概況別1日当たりの万引き検挙件数(2015年)

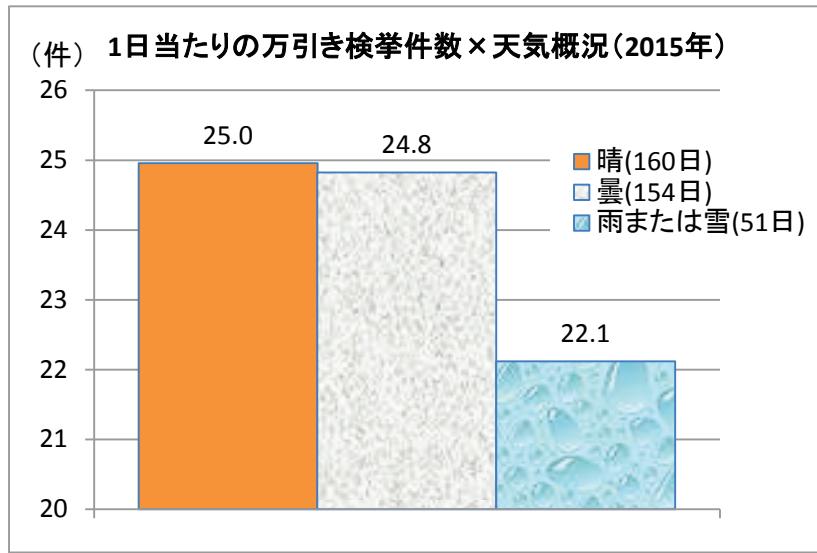


図4は、被害額別、被害品別の1日当たりの万引き件数(天気概況別)、図5は、年代別の1日当たりの万引き件数(天気概況別)である。いずれも、万引き検挙件数全体の6割を超える食料品類に絞った件数も示した。

図5上に示した年代別の万引き検挙件数は有意差があった。55歳以上の高年齢層では「雨または雪」の日の件数が明らかに少ないが、35～54歳では天気による差は認められない。この傾向は、高齢者の万引き件数が顕著に多い食料品類に絞ってみても同じである(ただし有意差はない)。

図4 被害額別、被害品別の1日当たりの万引き検挙件数(2015年 6~18時天気概況別)

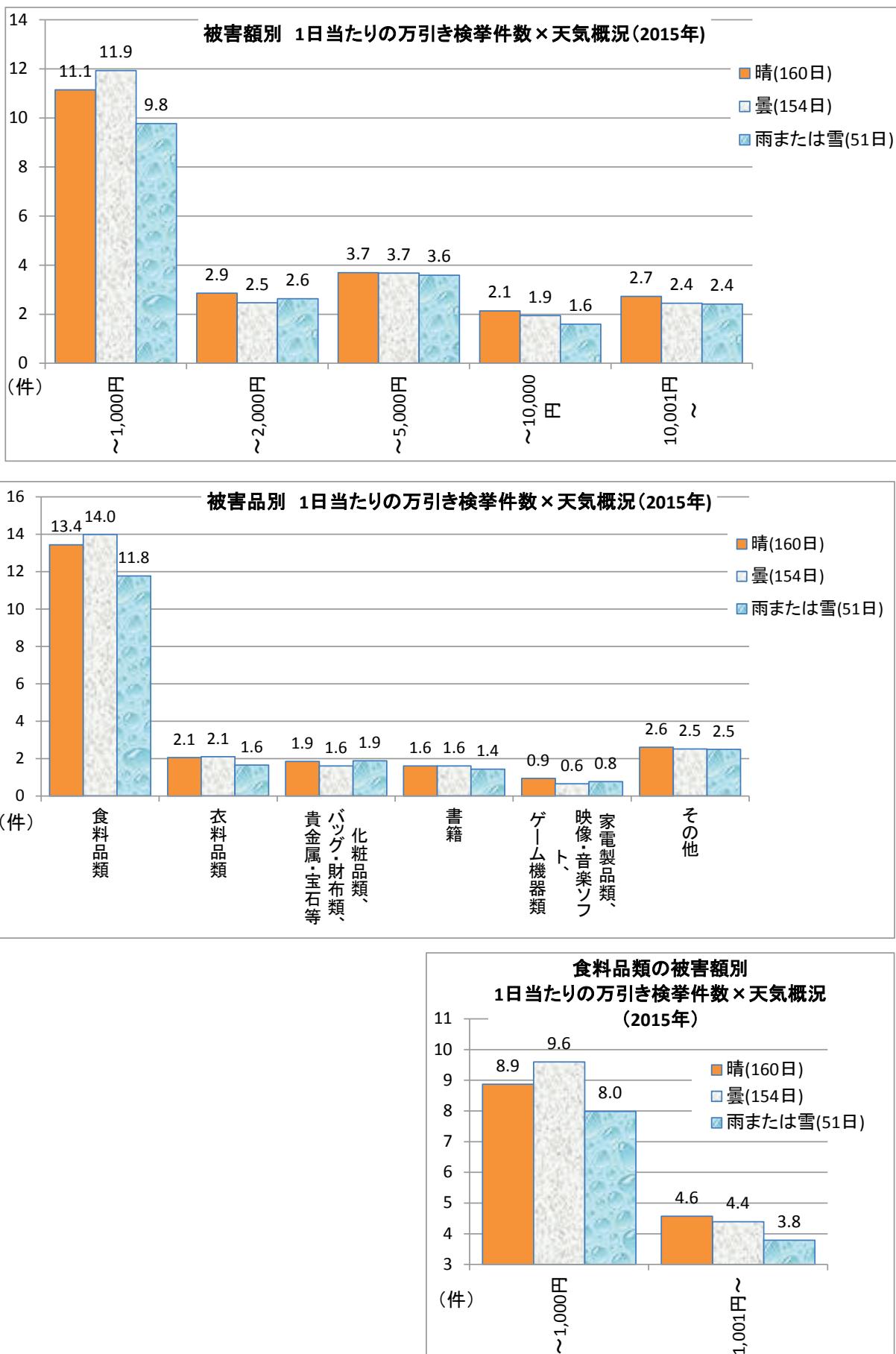
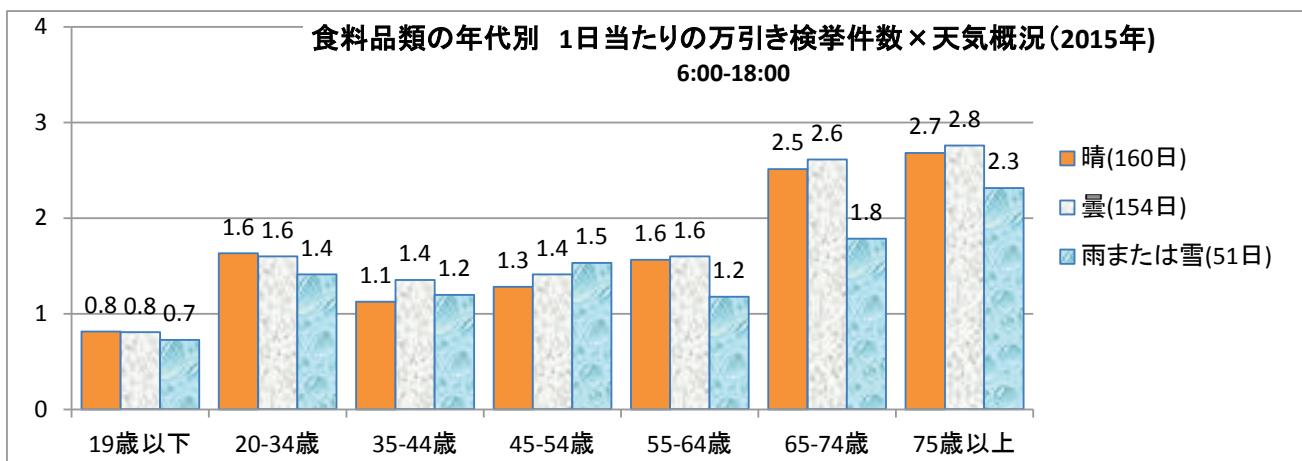
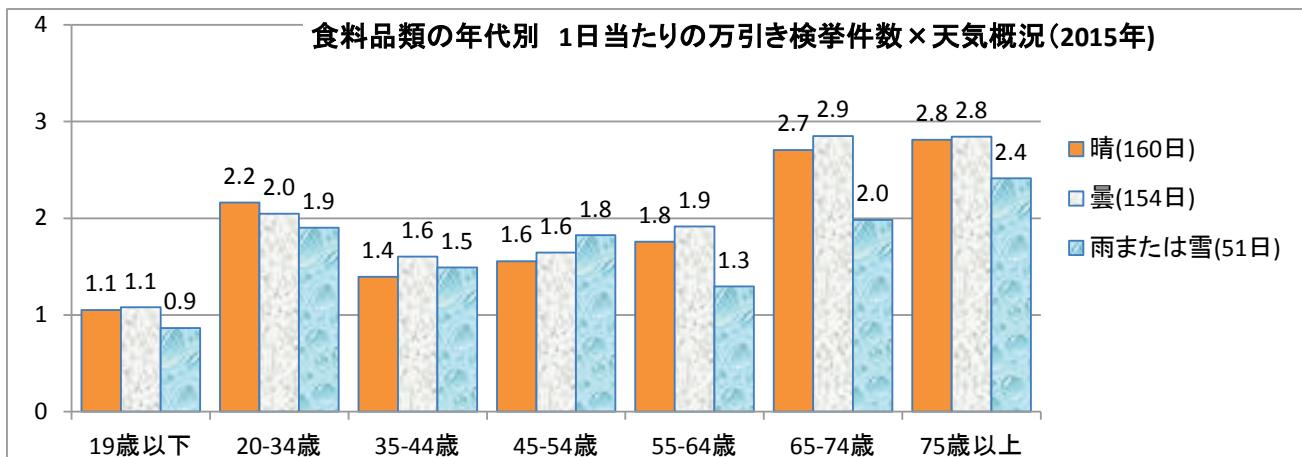
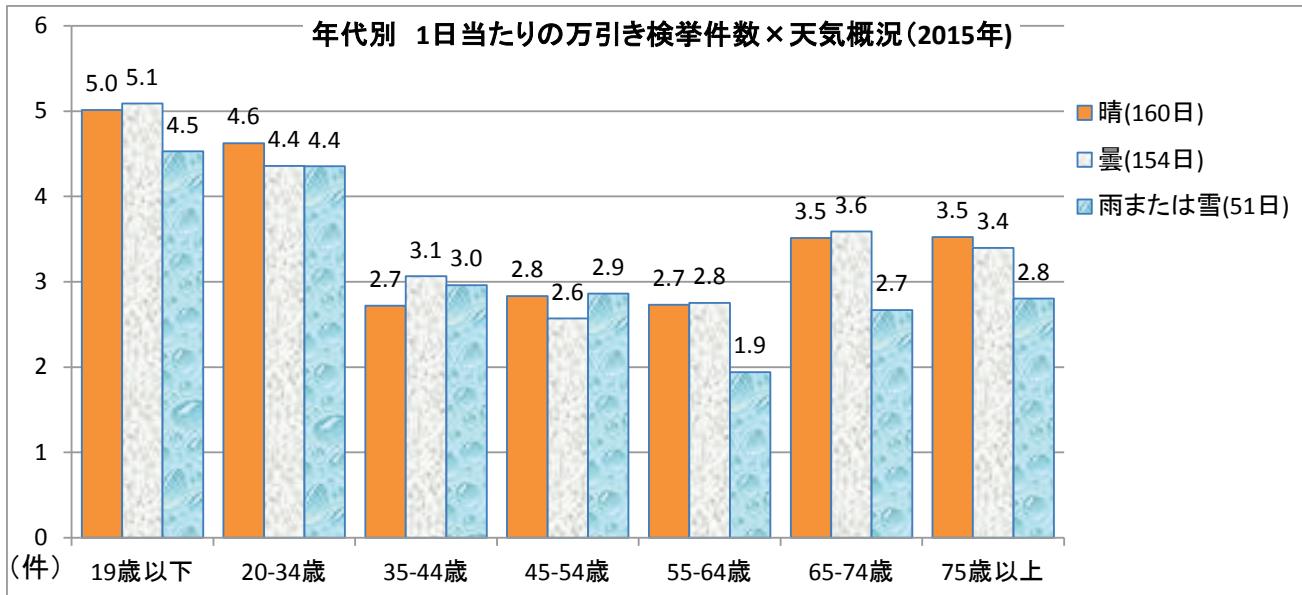


図5 年代別の1日当たりの万引き検挙件数（2015年 6～18時天気概況別）



### (3) 分析の方法

主な分析手法は、クロス集計に基づく対応分析である。対応分析は、クロス集計表の行と列のそれぞれの項目の相関係数を最大化するような行・列の数値（スコア）を求める手法である。ただし、相関係数を最大化する方法は1通りとは限らないので、スコアはそれぞれ何通りかを求ることになる。

本報告では、対応分析の結果を、得られた行のスコア2種類と列のスコア2種類を用いて描いた2つの散布図を同時に布置する「同時布置図」で示す。同時布置図では、主に以下のような観点から分析結果を解釈する。

- 項目の相対的な位置関係を見る。（近くに布置された項目は関連が強い）
- 布置図の両端にプロットされた項目で、軸（成分）の解釈を行う。
- 軸は、頻度の割合のパターンを強調するので、項目による頻度の割合に変化がない標準的な項目は中心に集まる。（中心は積極的には解釈しない）

「年齢層・性別による特徴（目的①）」の分析に用いたのは、「年齢層×性別」と表3各列の全変数とのクロス集計である。いくつかの分析に「万引きをあきらめる要因」を加えたのは、有効な対策と考えられる「店員の声掛け」等との関連を見るためである。

表3 「年齢・性別による特徴」の分析に用いた変数（「年齢層×性別」以外）

(数字は目次番号)→ ↓分析に用いた変数		2(1) 個人属性	2(2) 犯行内容 ・状況	2(3) 被疑者等の 意識
個人属性	世帯	○		
	前歴	○		
	相談できる人	○		
	交友人数	○		
	生きがい	○		
	無職	○		○
	罰金刑	○		
	犯行時所持金	○		○
	送致等区分	○		
犯行内容・状況	犯行時刻		○ ○	
	犯行曜日		○	
	天気		○ ○	
	犯行場所(同一自治体か)		○ ○	
	犯行店舗		○ ○	
	被害品		○ ○	○
	被害総額		○ ○	○
被疑者等の意 識	犯行決意時			○
	時間選択理由		○ ○	
	地域選択理由		○ ○	
	店舗選択理由		○ ○	
	動機			○ ○
	金を払わない理由			○ ○
	罪の意識			○
	逮捕理由			○
	万引きをあきらめる要因	○	○	○

「店員の声掛け等の有効性（目的②）」では、「万引きをあきらめる要因」と表4各列の全変数とのクロス集計を用いた。

表4 「店員の声掛け等の有効性」の分析に用いた変数（「万引きをあきらめる要因」以外）

(数字は目次番号)→ ↓分析に用いた変数		3(2) 年齢・性別、犯行状況・内容	3(3) 被疑者等の意識、犯行内容
個人属性	<b>年齢層×性別</b>	○	
	世帯		
	前歴	○	○
	相談できる人		
	交友人数		○
	生きがい		
	無職		
	罰金刑		
	犯行時所持金	○	○
	送致等区分		○
犯行内容・状況	犯行時刻	○	
	犯行曜日		
	天気	○	
	犯行場所(同一自治体か)		
	犯行店舗	○	○
	被害品	○	○
	被害総額	○	○
被疑者等の意識	犯行決意時		○
	時間選択理由		○
	地域選択理由		
	店舗選択理由		○
	動機		○
	金を払わない理由		
	罪の意識		○
	逮捕理由		○

なお、表3、表4各列の変数は、分析に用いた全データの中で、度数分布に極端な偏り（たとえば9割以上が1つの水準に集中している等）がなく、且つ、欠測値が少ない変数である。また、変数によっては、度数が小さすぎる水準を統合する等の加工を適宜行っている。

## 2. 年齢層・性別に関する分析結果

### (1) 個人属性

「年齢層×性別」(表1)とのクロス集計に用いた各変数の単純集計結果を表5に示す。

「職業」も個人属性に関わる項目であるが、少年は「学生」、高齢者は「無職」、女性は「主婦」が多い等、年齢性別に大きく関連する特徴があるため、最初から分析に用いなかった。

表5 対応分析に用いた個人属性に関する変数

【世帯】 2水準	度数	割合	【無職】 1水準	度数	割合
同居	418	62.5%	無職	349	100.0%
独居	251	37.5%	合計	349	1
合計	669	100.0%	欠測値N	370	
欠測値N	50				

【前歴】 3水準	度数	割合	【罰金刑】 2水準	度数	割合
初犯	325	48.0%	罰金刑×	391	66.8%
他歴あり	65	9.6%	罰金刑○	194	33.2%
再犯	287	42.4%	合計	585	1
合計	677	1	欠測値N	134	
欠測値N	42				

【相談できる人】 3水準	度数	割合	【犯行時所持金】 6水準	度数	割合
相談できる人家族	198	33.8%	所持金_高	133	22.5%
相談できる人他	147	25.1%	所持金_10000	64	10.8%
相談できる人無	240	41.0%	所持金_5000	118	20.0%
合計	585	1	所持金_2000	48	8.1%
欠測値N	134		所持金_1000	111	18.8%

【交友人数】 4水準	度数	割合	【送致等区分】 3水準	度数	割合
交友0	163	29.1%	送致区分_微罪等	241	33.5%
交友-3	155	27.7%	送致区分_書類等	331	46.0%
交友-5	102	18.2%	送致区分_身柄付等	147	20.4%
交友10-	140	25.0%	合計	719	1
合計	560	1	欠測値N	0	
欠測値N	159				

【生きがい】 3水準	度数	割合
生きがい人	100	17.2%
生きがい他	179	30.7%
生きがい無	304	52.1%
合計	583	1
欠測値N	132	

対応分析結果の同時布置図 ( $c_1 \times c_2$ 、 $c_1 \times c_3$ ) を、図 6 と図 7 に示す。

なお、図に示した「寄与率」とは、対応分析を適応したクロス集計表（この場合「年齢層×性別」と個人属性のクロス集計表）の行と列の関連を各軸 ( $c_1, c_2, c_3 \dots$ ) で各々何%説明できるかを示したものである。もっとも説明力が高いのが  $c_1$ 、次が  $c_2$ 、その次が  $c_3$  となる。

以後、対応分析結果の同時布置図はもっとも説明力の高い  $c_1 \times c_2$  のみを示すのを基本とする。ただし、図 6 のように、 $c_1 \times c_2$  の図では表現されていない意味のある特徴が現れた場合は、隨時示すこととする。

図6 「年齢層×性別」と個人属性の対応分析結果1 (c1×c2, 同時布置図)

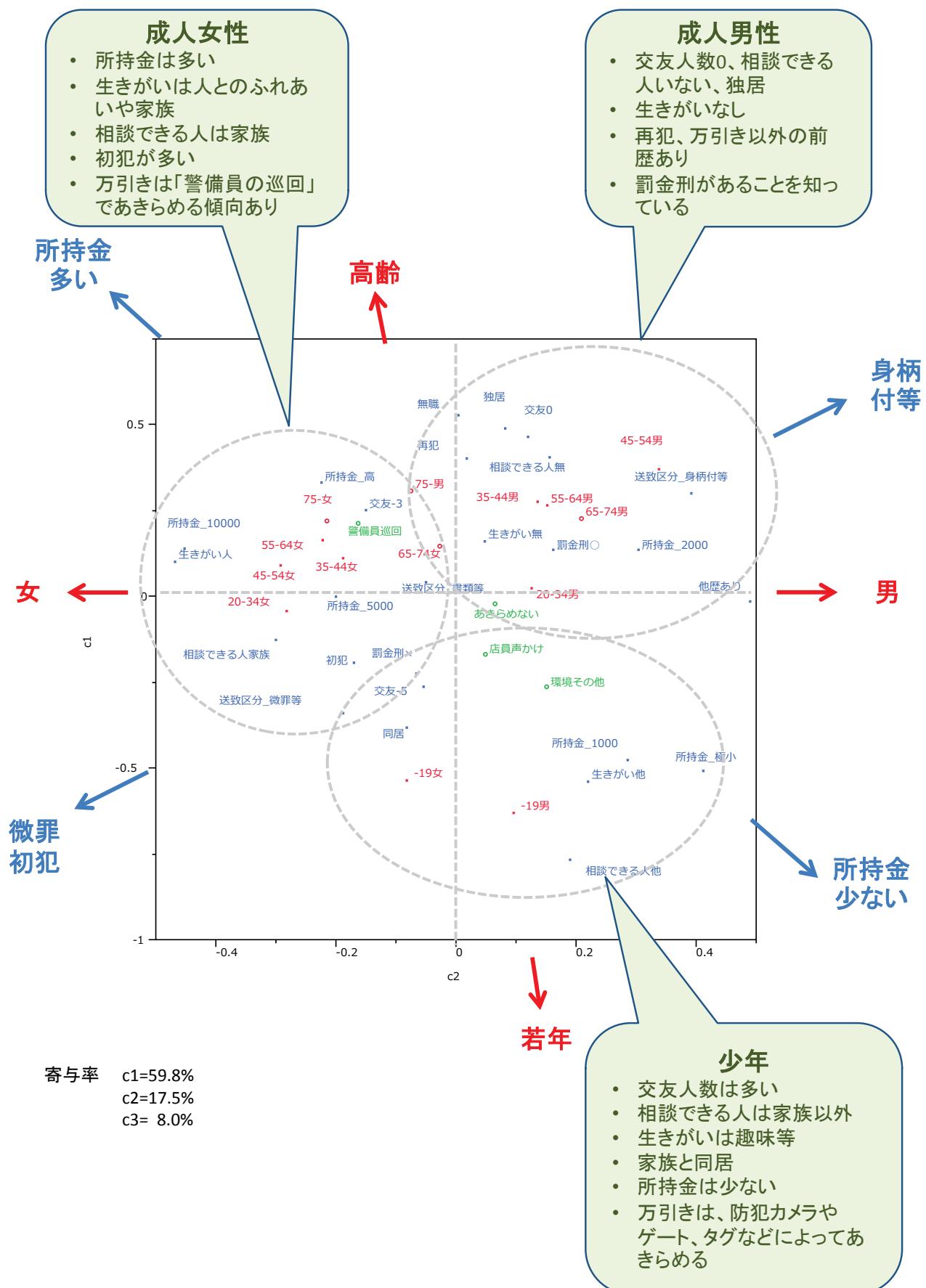


図7 「年齢層×性別」と個人属性の対応分析結果2 (c1×c3, 同時布置図)

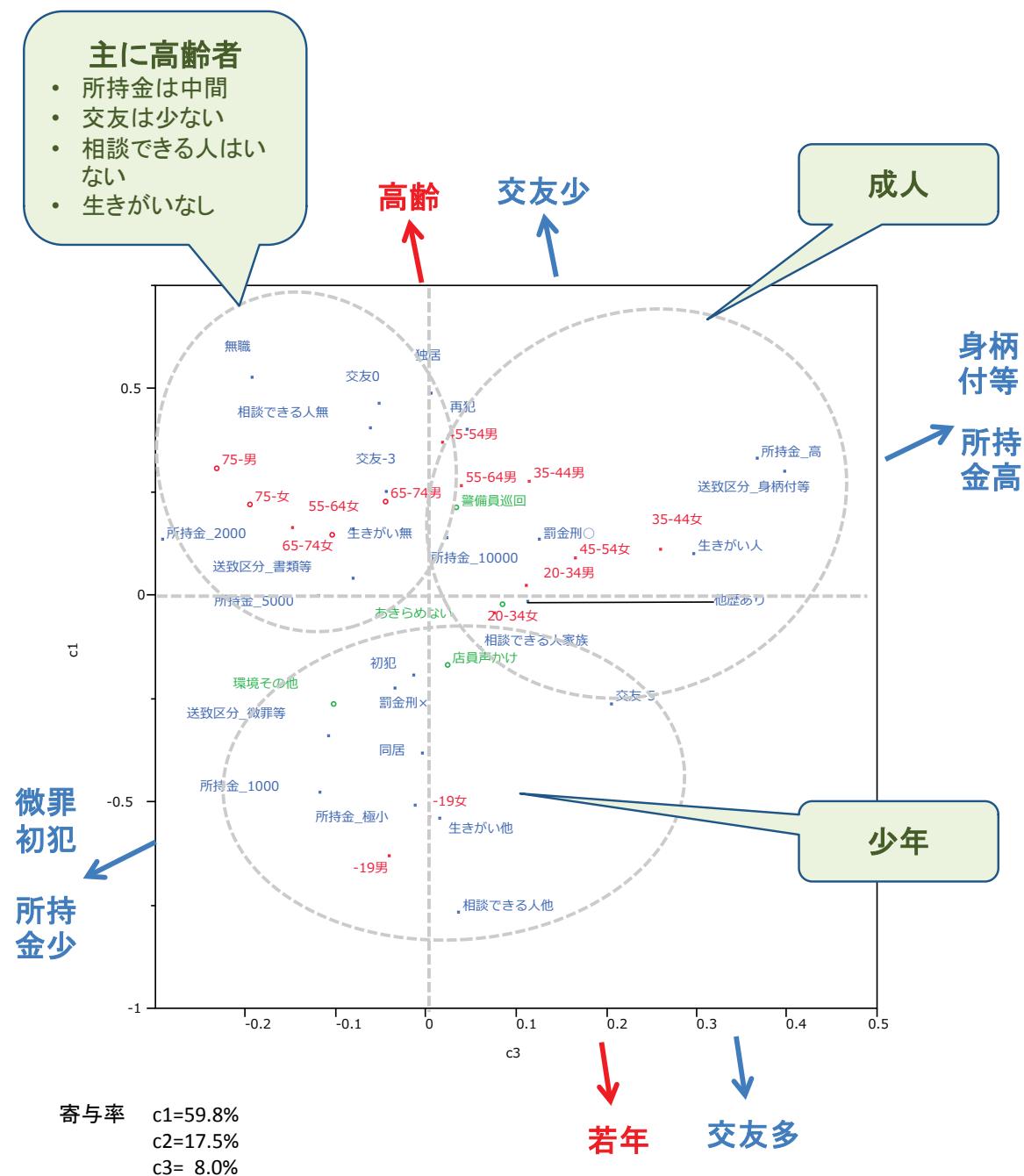
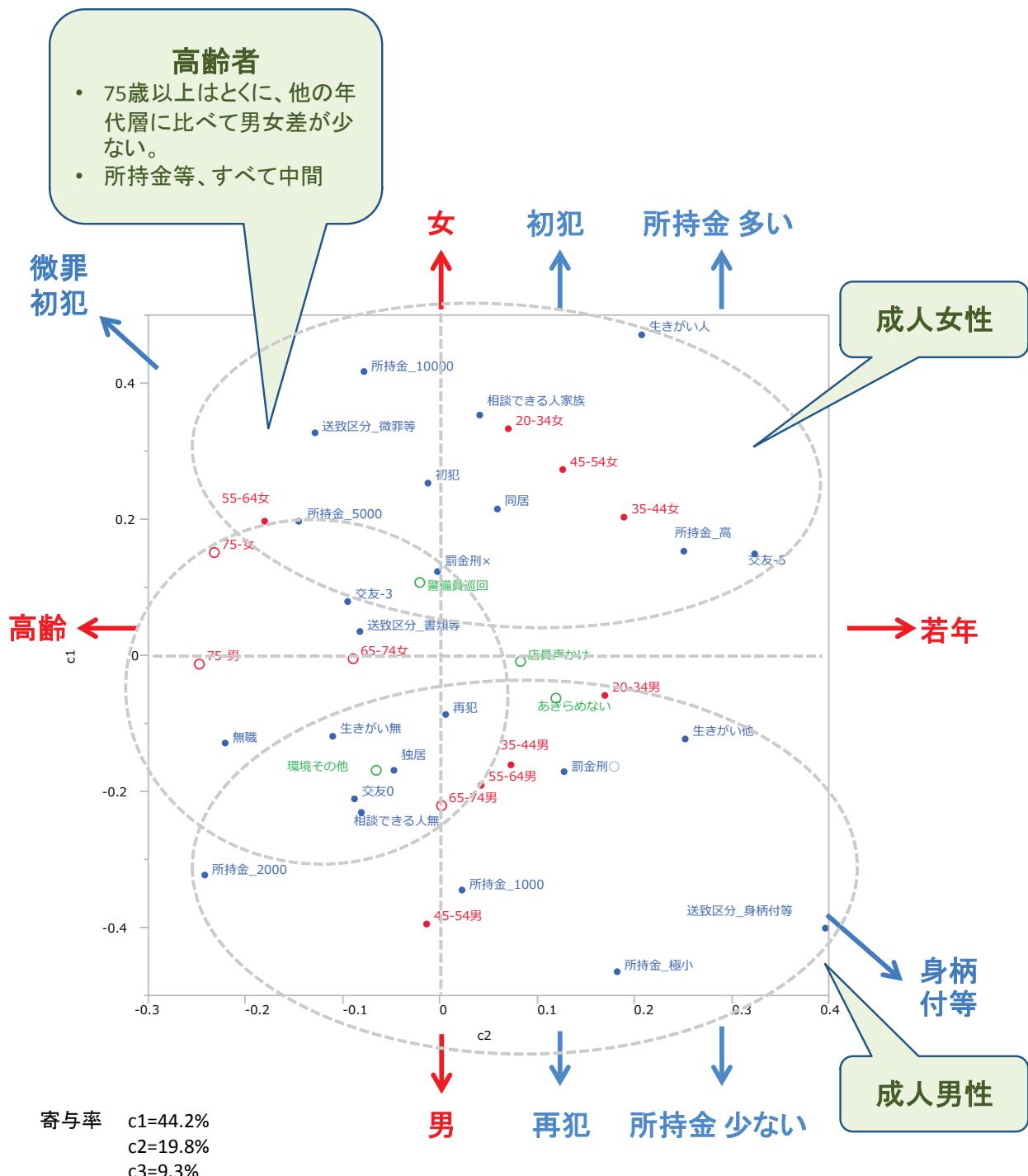


図6、7では「少年」が他の年齢層と大きく離れており、際立って特徴的であることが分かる。そこで、「年齢層×性別」から19歳以下の男女を省いて同じ対応分析を試みた。結果(c1×c2)を図8に示す。

図8 「年齢層×性別（少年を除く）」と個人属性の対応分析結果1 (c1×c2, 同時布置図)



以上より読みとくことができる結果は、次のとおりである。

#### 【高齢者】

- 75歳以上はとくに男女差が小さい。
- 交友人数が少なく、独居で、相談できる人がいない、生きがいがないといった傾向がある（とくに75歳未満の男性）。
- 無職である。
- 所持金は多くも少なくもない。なお、所持金は、男性より女性の方が多い傾向がある。
- 万引きをあきらめる要因は、女性では「警備員の巡回」、男性では、防犯カメラやミラー、タグ、ゲート等の環境条件であることが多い。

#### 【成人】

- 年齢層の差は小さく、男女差が非常に大きい。
- 女性は、交友人数が多く、家族と同居しており、家族等を生きがいとする傾向がある。初犯が多い。
- 男性は、交友関係は少ない。再犯、また、他の犯罪歴を有する人（外れ値のため図8からは除外）が多い。万引きを「何があってもあきらめない」とする人が他の層より多い傾向がある。

#### 【少年】

- 他の年齢層に比べて際立った特徴がある。
- 家族と同居しており、交友人数は他の層に比べて非常に多い。相談できる人は、家族以外の先輩や友人等である。
- 犯行時の所持金は他の層に比べてごくわずかである。初犯が非常に多く、万引きに罰金刑があることを知らない。
- 万引きをあきらめる要因は、防犯カメラやミラー、タグ、ゲート等の環境条件や「店員の声掛け」である。

## (2) 犯行内容・状況

「年齢層×性別」(表1)とのクロス集計に用いた各変数の単純集計結果を表6に示す。

表6 対応分析に用いた犯行状況・内容に関する変数

【犯行時刻】 13水準	度数	割合	【犯行場所】 2水準	度数	割合
6~9時	34	4.7%	同一自治体	401	66.1%
10時	46	6.4%	別自治体	206	33.9%
11時	78	10.8%	合計	607	1
12時	67	9.3%	欠測値N	112	
13時	52	7.2%			
14時	68	9.5%			
15時	72	10.0%			
16時	69	9.6%			
17時	76	10.6%			
18時	61	8.5%			
19時	23	3.2%			
20~0時	54	7.5%			
1~5時	19	2.6%			
合計	719	100.0%			
欠測値N	0				

【犯行曜日】 7水準	度数	割合	【被害品】 4水準	度数	割合
日曜	96	13.4%	食料品	421	59.5%
月曜	106	14.7%	本雑貨文具	96	13.6%
火曜	105	14.6%	衣類バッグ化粧	116	16.4%
水曜	127	17.7%	家電他	75	10.6%
木曜	101	14.0%	合計	708	1
金曜	96	13.4%	欠測値N	11	
土曜	88	12.2%			
合計	719	1			
欠測値N	0				

【天気】 3水準	度数	割合	【被害総額】 6水準	度数	割合
晴	275	43.4%	被害額-高	71	9.9%
曇	256	40.4%	被害額-10000	64	8.9%
雨	102	16.1%	被害額-5000	110	15.3%
合計	633	1	被害額-2000	96	13.4%
欠測値N	86		被害額-千円	259	36.0%
			被害額-少	119	16.6%
			合計	719	1
			欠測値N	0	

対応分析結果の同時布置図(c1×c2)を図9に示す。なお「犯行曜日」は、特徴的な傾向が見られなかつたため、最終的な分析からは除外した。

図9では、犯行時刻、地域、店舗で特徴的な傾向が見られた。このため、「犯行時刻選択理由」「犯行地域選択理由」「犯行店舗選択理由」(単純集計結果は表7)を含め、「万引きをあきらめる要因を除いた対応分析も行った。結果の同時布置図を図10(c1×c2)に示す。

図9 「年齢層×性別」と犯行状況・内容の対応分析結果 (c1×c2, 同時布置図)

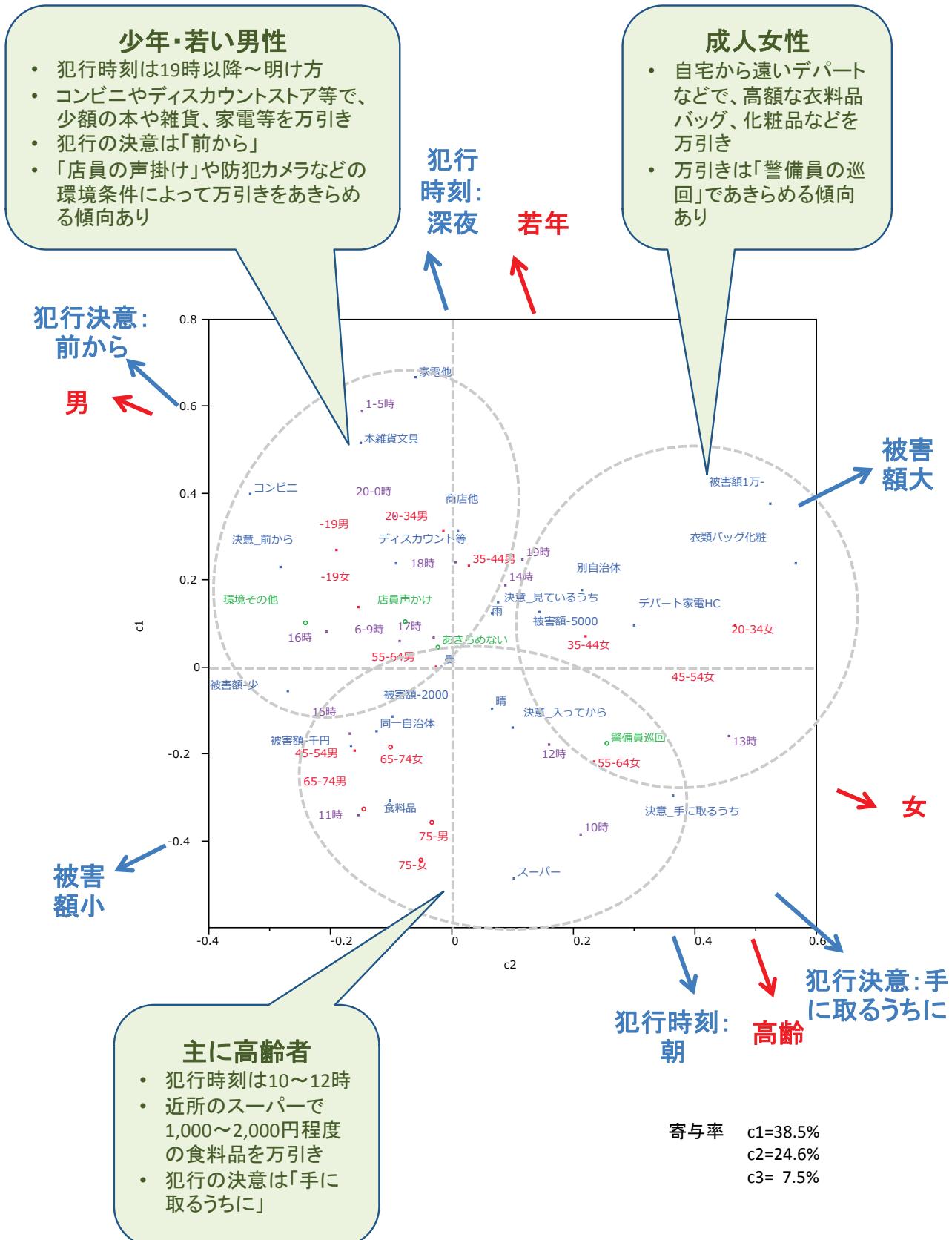
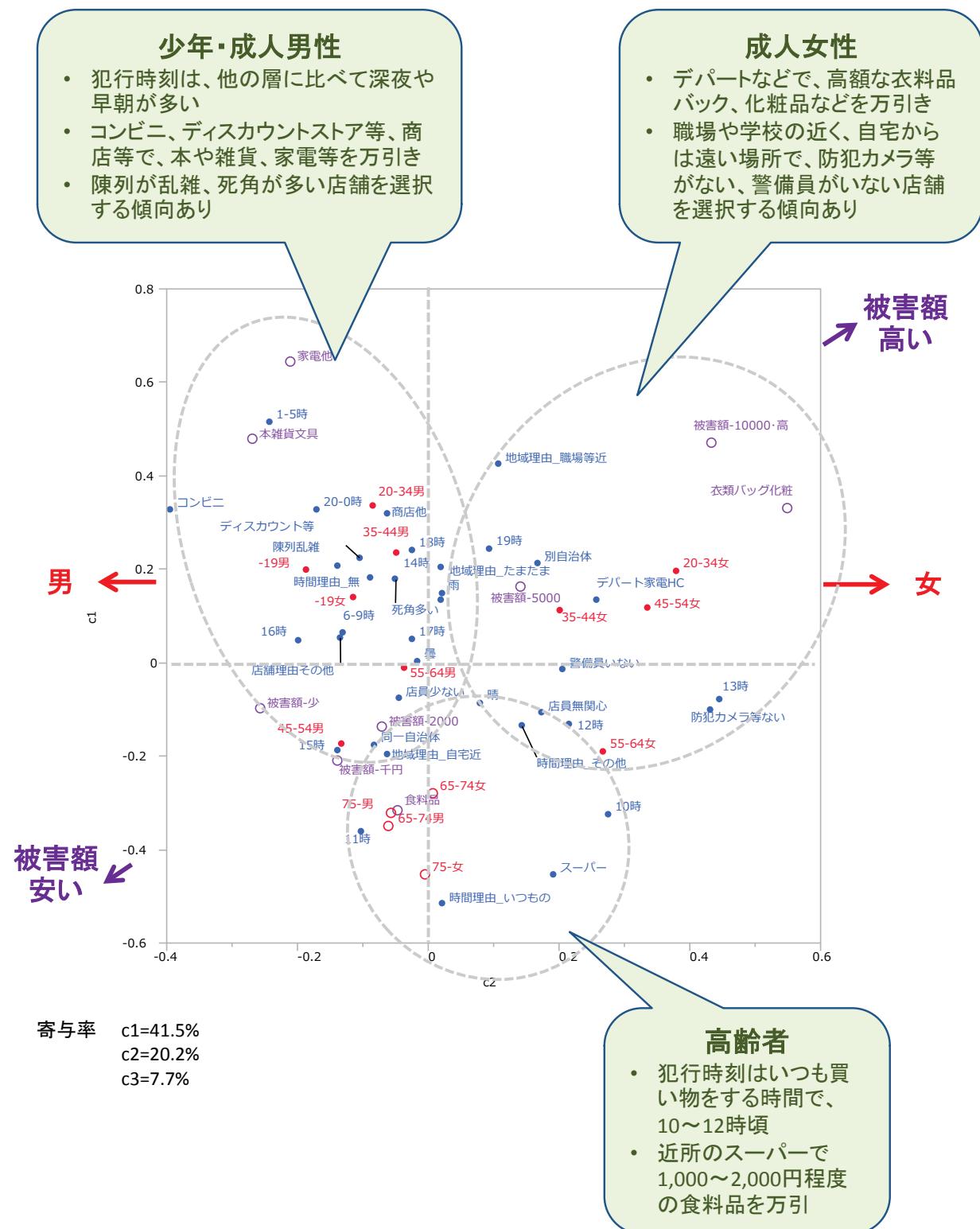


図 10 「年齢層×性別」と犯行状況・内容および時刻・地域・店舗選択理由の対応分析結果  
(c1×c2, 同時布置図)



以上より読みとることができる結果は、次のとおりである。

#### 【高齢者】

- 他の年齢層に比べて特徴的である。男女差は小さい。
- 自宅近く（犯行場所と被疑者住所が同一自治体）のスーパーで、午前 10 時から 12 時頃に 1,000 円～2,000 円程度の食料品を万引きするという顕著な傾向がみられる。犯行日は晴天が多く、犯行の決意は「商品を手に取ったとき」が多い。
- 店舗を選択する理由は「自宅に近いから」で、犯行時刻は「いつも買い物をする時間」である。

#### 【成人女性】

- 被害額が高いという際立った傾向がある。
- デパートや家電量販店、ホームセンター等で、衣料品やバッグ、化粧品類等高価なものを万引きしている。
- 犯行場所は職場や学校に近く自宅からは遠い場所を、店舗は防犯カメラ等がない、警備員がいないところを選択する傾向がある。
- 警備員に敏感であり、万引きをあきらめる要因は「警備員の巡回」である。

#### 【少年・男性（とくに若い男性）】

- 少年は、深夜・早朝に、コンビニやディスカウントストア等で、本や雑貨、家電等を万引きしている。20～30 代の若い男性も同傾向である。
- 店に入る前から犯行を決意しているという計画性がみられる。
- 万引きをあきらめる要因は、防犯カメラやミラー、タグ、ゲート等の環境条件や「店員の声掛け」である。

### (3) 被疑者等の意識

「年齢層×性別」（表1）とのクロス集計に用いた各変数の単純集計結果を表7、表8に示す。

表7 対応分析に用いた被疑者等の意識に関する変数1～罪の意識、動機等～

【罪の意識】 7 水準	度数	割合
捕まらない(捕まると思っていなかった)	301	48.9%
何も考えない(何も考えていなかった)	163	26.5%
処罰と思っていた(捕まれば厳しく処罰されると思っていた)	48	7.8%
弁済すれば済む(捕まっても弁償すれば済むと思っていた)	37	6.0%
悪くない(悪いことだと思っていなかった)	32	5.2%
罪の意識他	24	3.9%
処罰されない(少額だから処罰されないとと思った)	10	1.6%
合計	615	100.0%
欠測値N	104	

【逮捕の理由】 4 水準	度数	割合
運悪かった	296	51.8%
いつか捕まる(いつか捕まると思っていた)	190	33.3%
失敗しただけ(今回失敗しただけ)	30	5.3%
逮捕理由他	55	9.6%
合計	571	100.0%
欠測値N	148	

【動機】 9 水準	度数	割合
生活困窮	159	23.6%
金払いたくない(金を払うのが馬鹿らしい)	152	22.6%
許されると思った(これくらい許されると思った)	74	11.0%
自分で買えない	55	8.2%
将来不安(多少の金はあるが将来が不安)	54	8.0%
空腹	46	6.8%
ゲーム感覚(ゲーム感覚、好奇心)	37	5.5%
転売目的	7	1.0%
その他の動機	89	13.2%
合計	673	100.0%
欠測値N	46	

【金を使わない理由】 3 水準	度数	割合
金使いたくなかった(使いたくなかった、別のものに使ったかった)	405	63.3%
所持金無_不足(なかった、足りなかった)	205	32.0%
金使わない理由他	30	4.7%
合計	640	100.0%
欠測値N	79	

表8 対応分析に用いた被疑者等の意識に関する変数2～犯行決意時・犯行選択理由～

【犯行決意時】 5水準	度数	割合
決意_前から	226	33.9%
決意_入ってから	235	35.2%
決意_見ているうち	125	18.7%
決意_手に取るうち	74	11.1%
決意_他	7	1.0%
合計	667	100.0%
欠測値N	52	
合計	601	1
欠測値N	118	

【犯行時間選択理由】 3水準	度数	割合
時間理由_いつもの(いつも買い物する時間帯)	62	9.6%
時間理由_その他(店員が忙しい、店員等が少ない、客が多い・少ない他)	185	28.6%
時間理由_無	399	61.8%
合計	646	100.0%
欠測値N	73	

【犯行地域選択理由】 3水準	度数	割合
地域理由_たまたま(たまたま行った場所)	228	34.5%
地域理由_自宅近	338	51.1%
地域理由_職場等近(職場近く、学校近く)	95	14.4%
合計	661	1
欠測値N	58	

【犯行店舗選択理由】 7水準	度数	割合
店員少ない	176	29.3%
死角多い	80	13.3%
警備員いない	69	11.5%
陳列乱雑(陳列が乱雑で盗みやすい)	50	8.3%
店員無関心	40	6.7%
防犯カメラ等ない(防犯カメラがない、ミラーがない、広報がない等)	16	2.7%
店舗理由その他	170	28.3%
合計	601	1
欠測値N	118	

対応分析結果の同時布置図 ( $c1 \times c2$ 、 $c1 \times c3$ 、 $c2 \times c3$ ) を図 11、図 12 に示す。

図 11、12 では「少年」が他の年齢層と大きく離れており、際立った特徴があることが分かる。そこで、「年齢層×性別」から 19 歳以下の男女を省いて同じ対応分析を試みた。この結果 ( $c1 \times c2$ ) は図 13 に示す。

以上の分析では、所持金や生活困窮等、お金に関する特徴的な傾向が見られたので、「動機原因」「金を払わない理由」だけをピックアップし、「犯行時所持金」「被害品」「被害総額」を加えた対応分析も行った。結果の同時布置図 ( $c1 \times c2$ ) を図 14 に、「年齢層×性別」から 19 歳以下の男女を省いて行った結果 ( $c1 \times c2$ ) を図 15 に示す。

図 11 「年齢層×性別」と被疑者等の意識の対応分析結果 1 (c1×c2, 同時布置図)

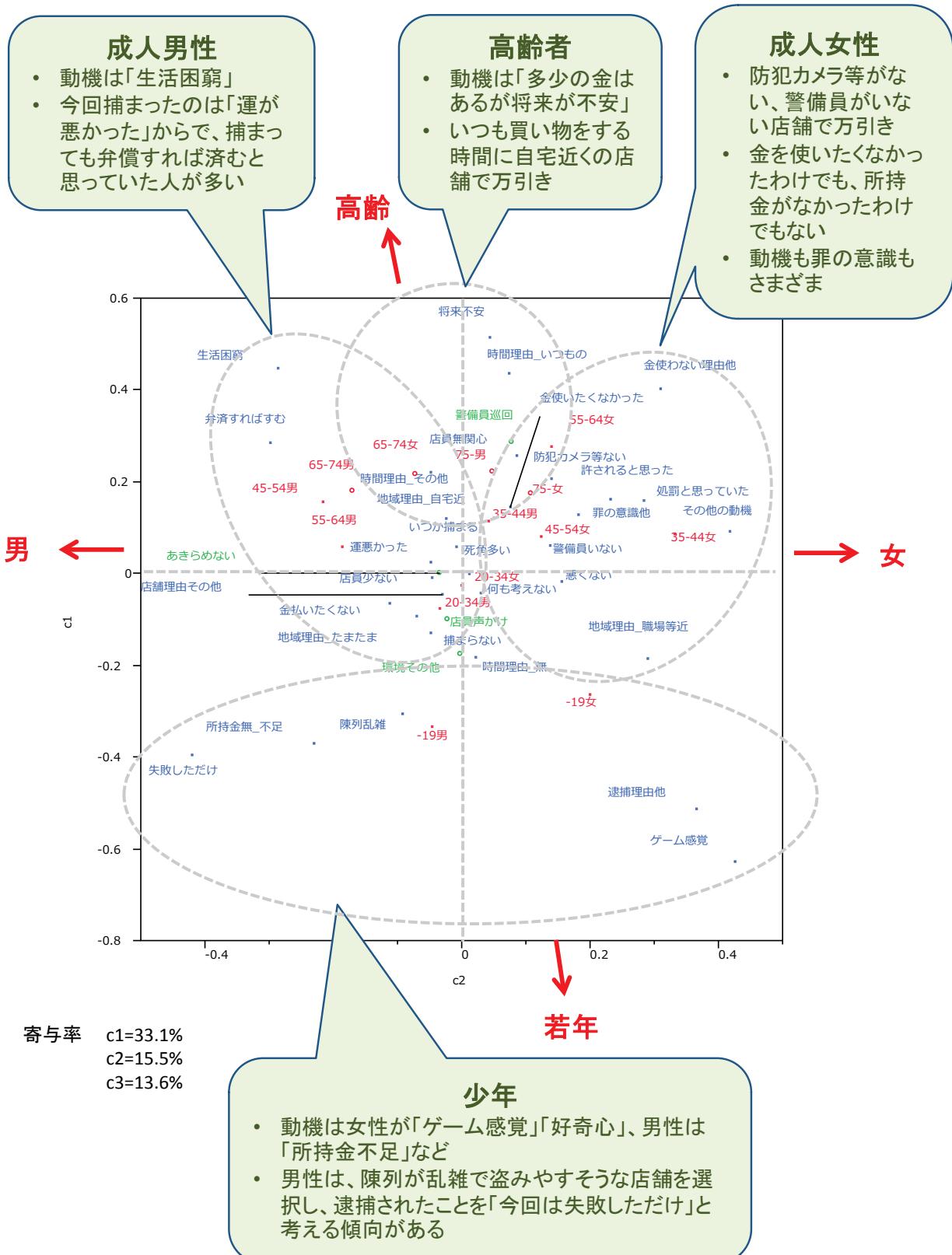


図 12 「年齢層×性別」と被疑者等の意識の対応分析結果2 (c1×c3, c2×c3 同時布置図)

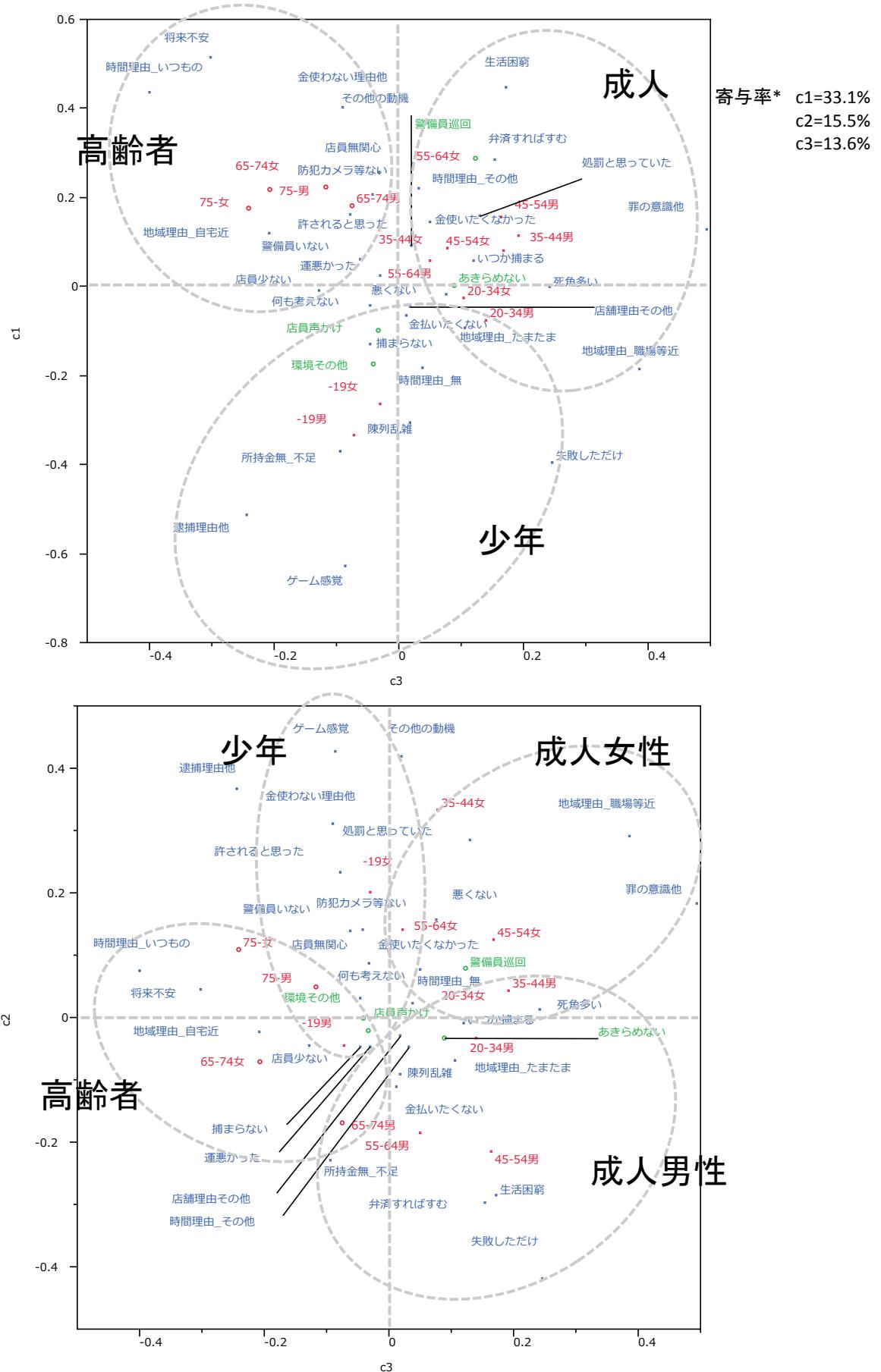


図 13 「年齢層×性別（少年を除く）」と被疑者等の意識の対応分析結果（c1×c2 同時布置図）

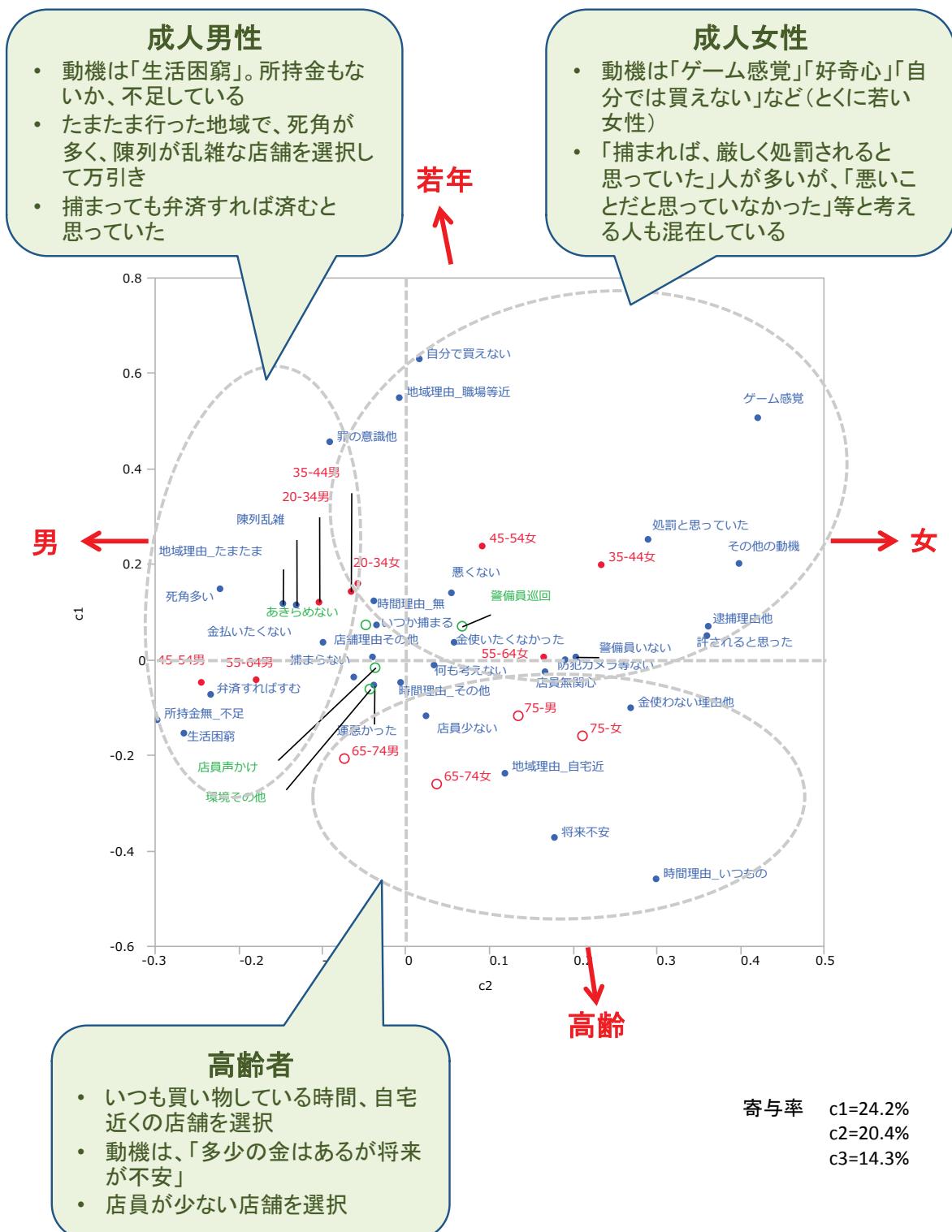


図14 「年齢層×性別」と「動機原因」「金を払わない理由」「犯行時所持金」「被害品」「被害総額」の対応分析結果(c1×c2 同時布置図)

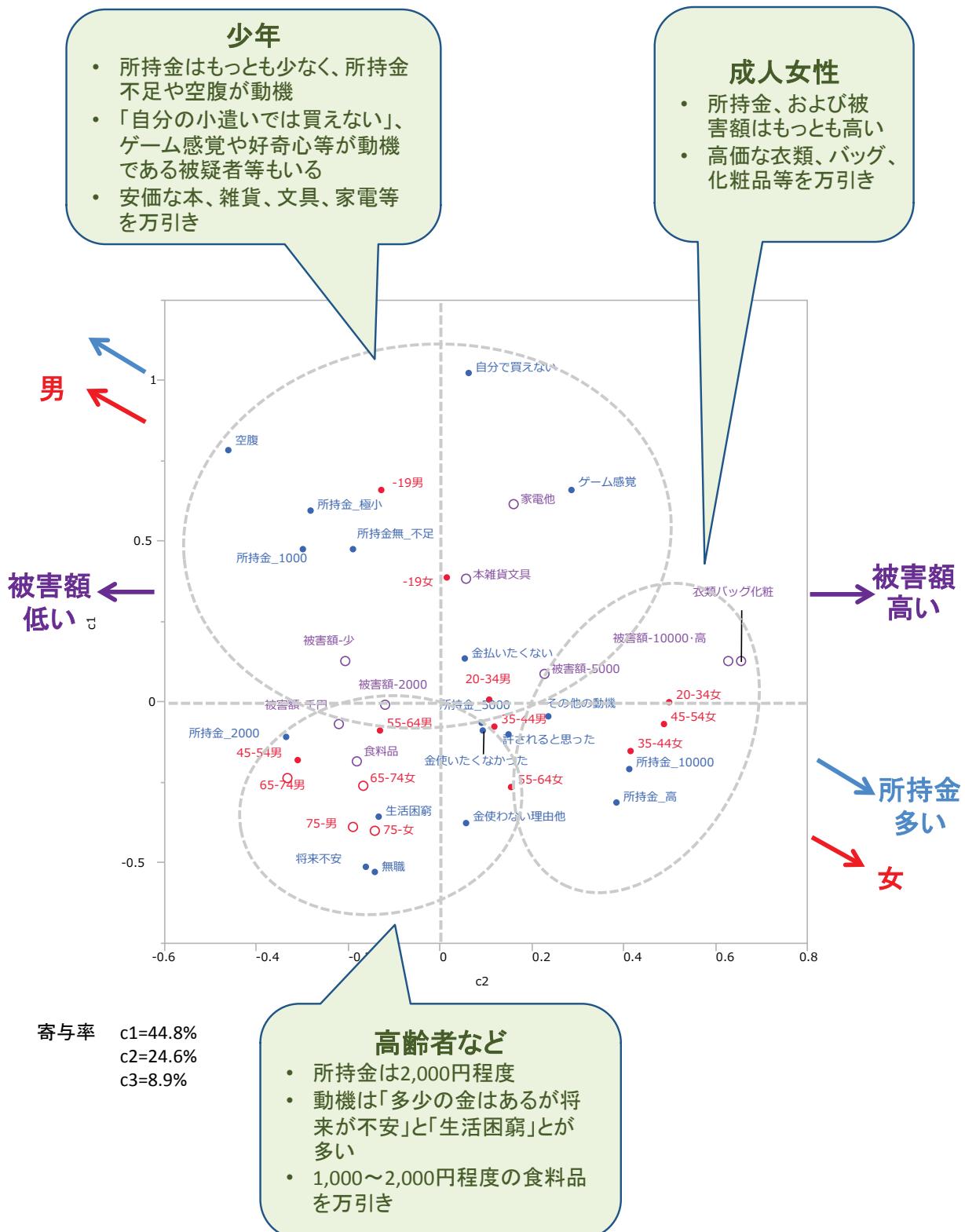
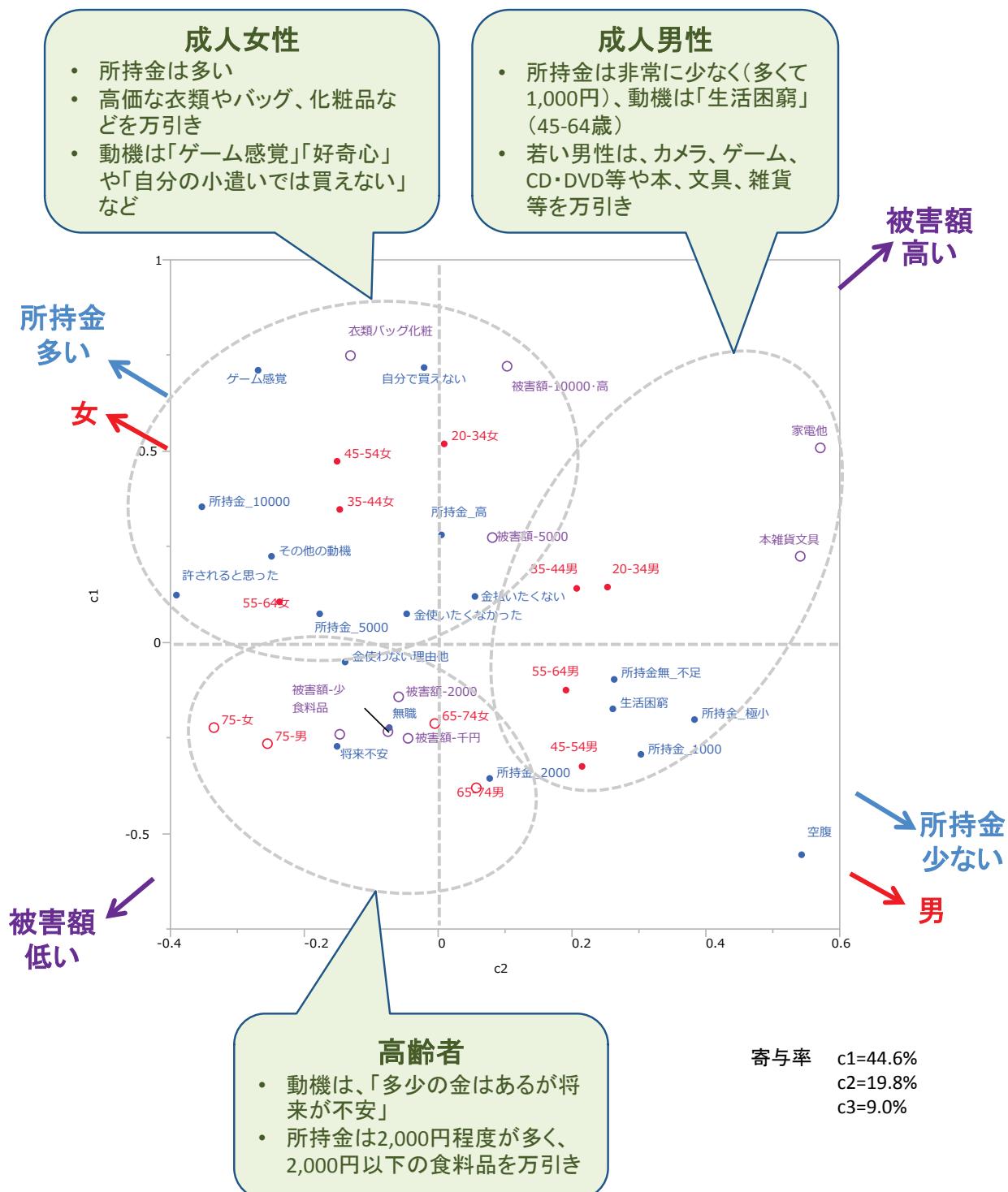


図 15 「年齢層×性別（少年を除く）」と「動機原因」「金を払わない理由」「犯行時所持金」「被害品」「被害総額」の対応分析結果（c1×c2 同時布置図）



以上より読みとることができる結果は、次のとおりである。

#### 【高齢者】

- いつも買い物をしている時間帯に、自宅近くのいつもの店で、2,000 円以下の食料品を万引きするという傾向が顕著である。
- 動機が特徴的で「多少の金はあるが将来が不安」に集中している。
- 「店員が少ない」、または「店員が無関心」な店舗を選ぶ傾向がある。

#### 【成人】

- 年齢層の差は小さく、男女差が大きい。
- 動機は、男性では「生活困窮」、女性では「ゲーム感覚」「好奇心」、または「自分では買えない」が多い傾向がある。所持金は男性は不足しているが、女性は多いという傾向がある。
- 男女ともに、若いほど職場や学校近くの地域を選択する傾向がある。ただし、男性はたまたま行った場所で犯行におよぶことも多い。
- 店舗は、男性は陳列が乱雑で死角が多いところ、女性は警備員がいないところ（あきらめる要因も「警備員の巡回」が多い）を選ぶ傾向がある。
- 男性は「捕まっても弁済すれば済む」、女性は「捕まれば厳しく処罰される」が多いという傾向があるが、これは女性の方が高価な商品（衣類やバッグ、化粧品等）を万引きするためであるとも考えられる。

#### 【少年】

- 所持金が非常に少ない。
- 動機は、所持金不足や空腹（男性に多い）、または「ゲーム感覚」「好奇心」（女性に多い）等が多い。
- 万引きするのは、本や雑貨、文具、カメラや CD・DVD 等が多い。
- とくに男性は、陳列が乱雑で盗みやすそうな店舗を選択し、逮捕されたことを「今回は失敗しただけ」と考える傾向がある。

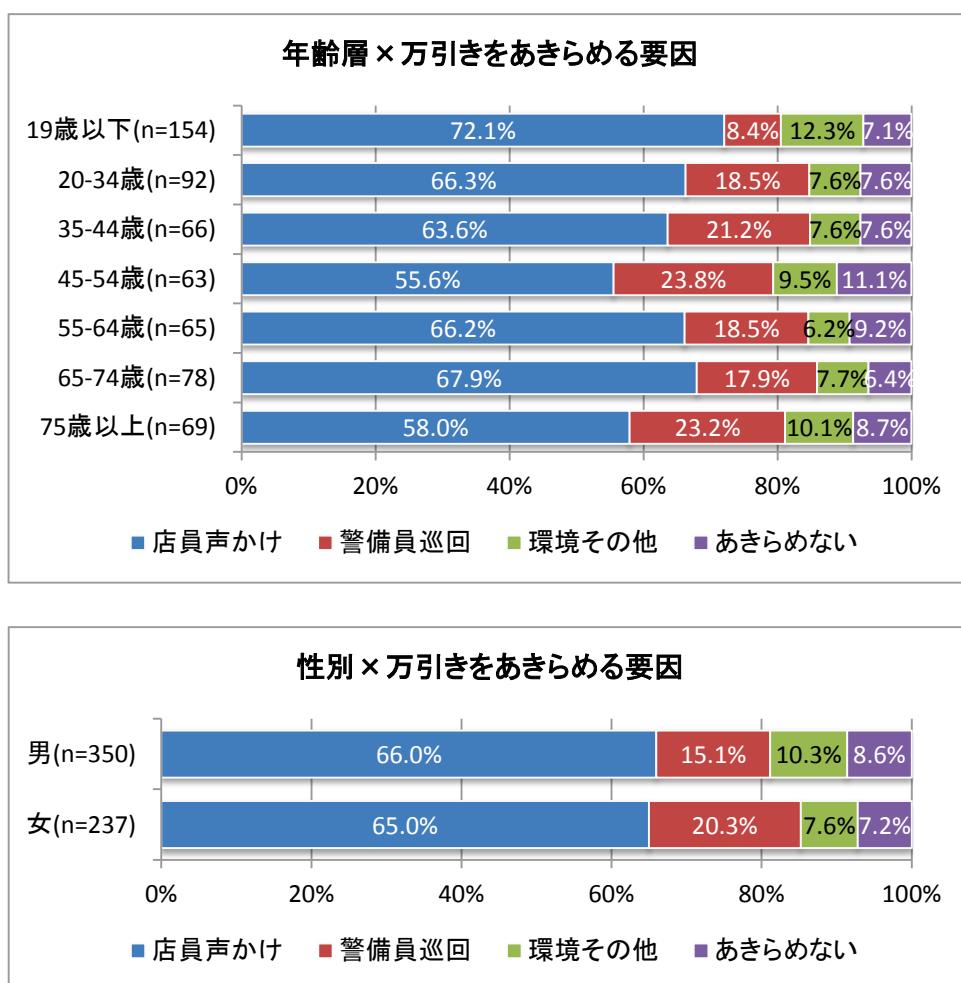
### 3. 「店員の声掛け」等の効果に関する分析結果

#### (1) クロス集計結果

「万引きをあきらめる要因」でもっとも多いのが「店員の声掛け」(65.6%)、次に多いのが「警備員の巡回」(17.2%)である(表1)。

「店員の声掛け」は、年齢層別には54歳までは若い方が多いという傾向があるが有意差はなく、男女差もみられない(図16)。

図16 年齢層・性別×「万引きをあきらめる要因」



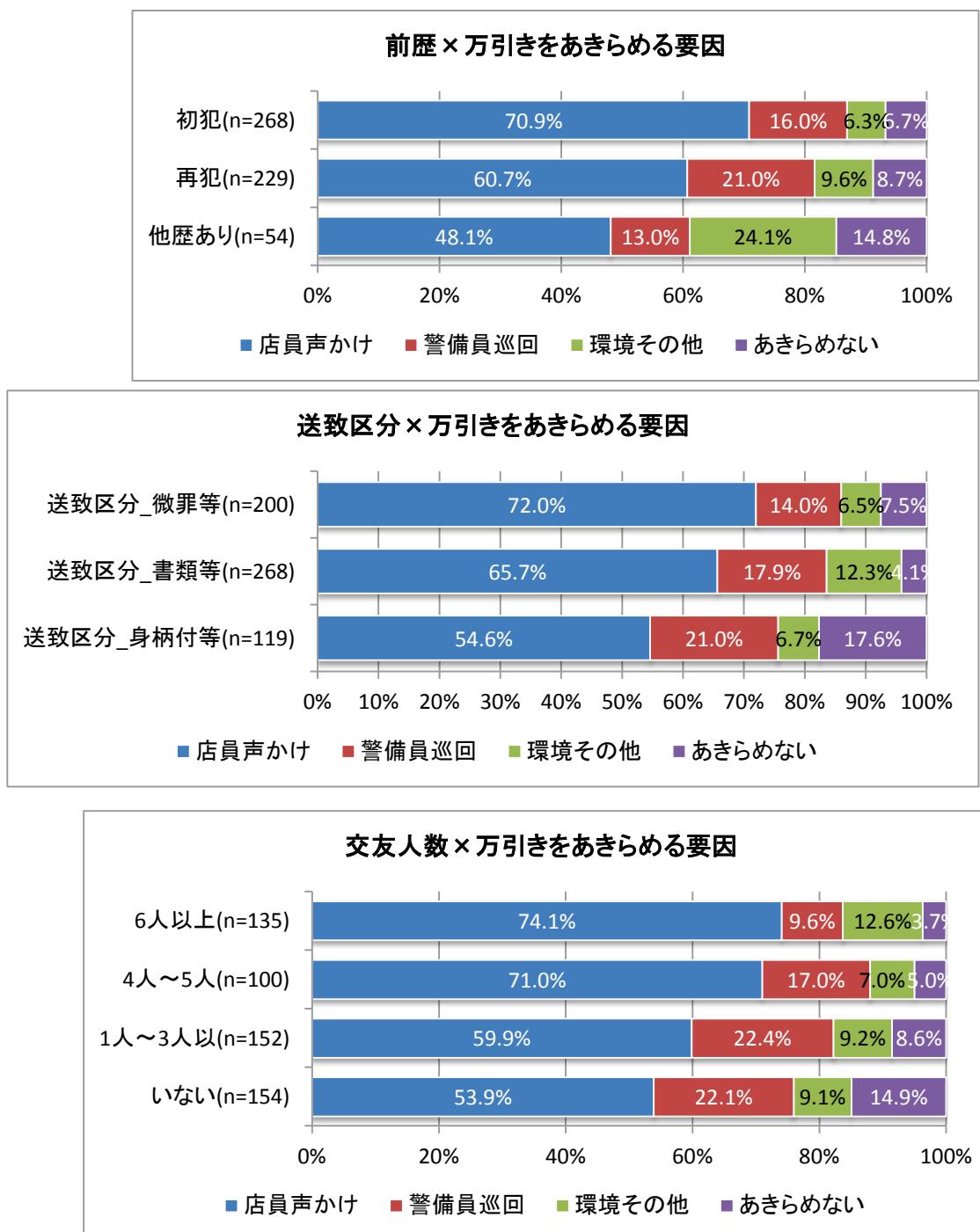
対応分析に先立ち、「万引きをあきらめる要因」と全変数のクロス集計を行った。有意差があったものは10変数であった。「店員の声掛け」に着目し、どのような差があったかを以下に示す。

総合すると、「店員の声掛け」が有効なのは、ゲーム感覚や好奇心等の軽い気持ちで小額のものを万引きした初犯の被疑者等で、交友人数が少なくない被疑者等といえる。

### 【個人属性】(図 17)

- 「前歴」 : 「初犯」がもっとも有効である。
- 「送致等区分」 : 罪が軽い方が有効である。
- 「交友人数」 : 交友人数が多い方が有効である。

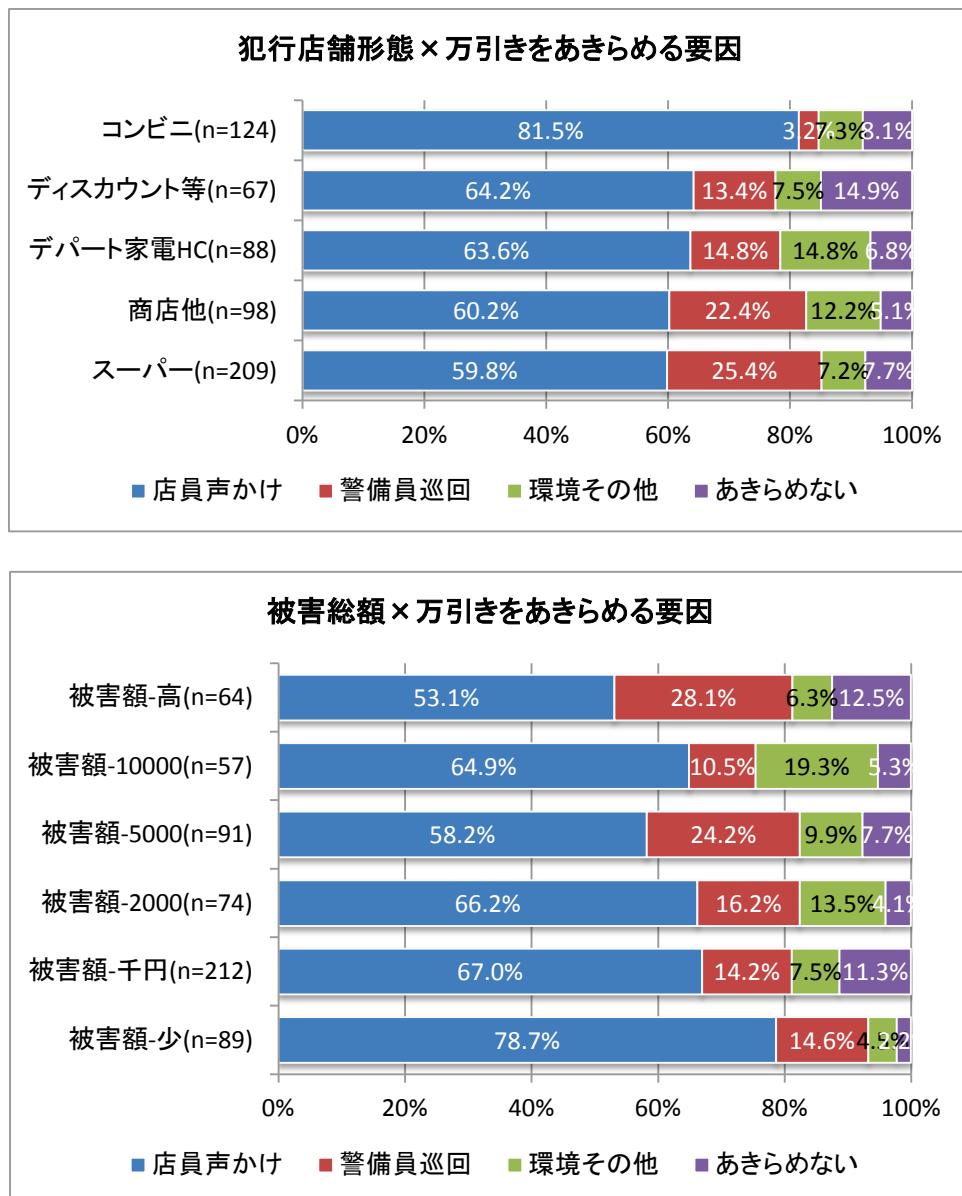
図 17 個人属性×「万引きをあきらめる要因」



### 【犯行内容・状況】(図18)

- 「犯行店舗形態」 : コンビニでは「警備員の巡回」が少ないと結果的に有効。
- 「被害総額」 : 被害額が少ない方が有効である。

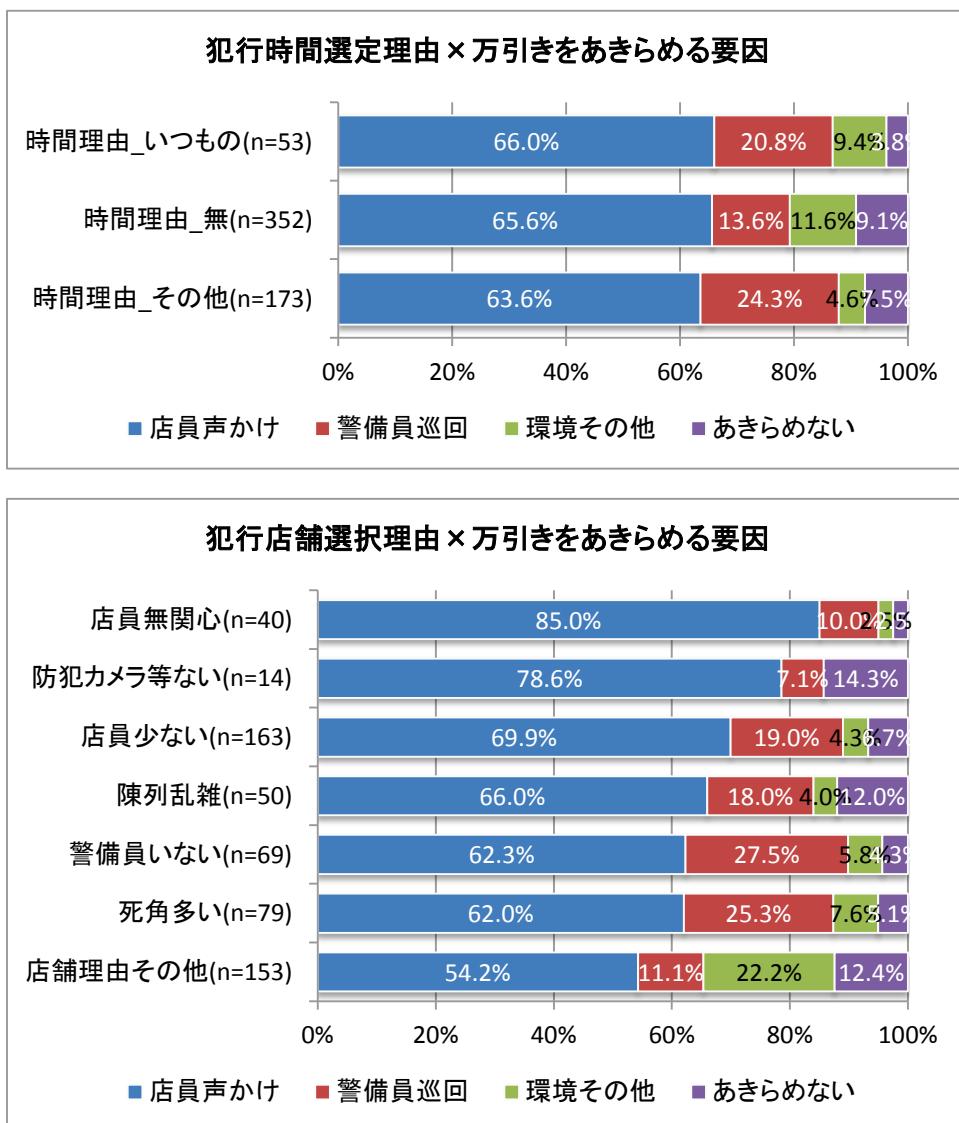
図18 犯行内容・状況×「万引きをあきらめる要因」



### 【被疑者等の意識】(図19, 20)

- 「犯行時刻選定理由」: 「店員の声掛け」については差はない。
- 「犯行店舗選択理由」: もっとも有効なのは「店員が無関心」、次いで「防犯カメラ等がない」、「店員が少ない」の順である。店員を意識している被疑者等に有効といえる（同様に「警備員がいない」には「警備員の巡回」が有効）。

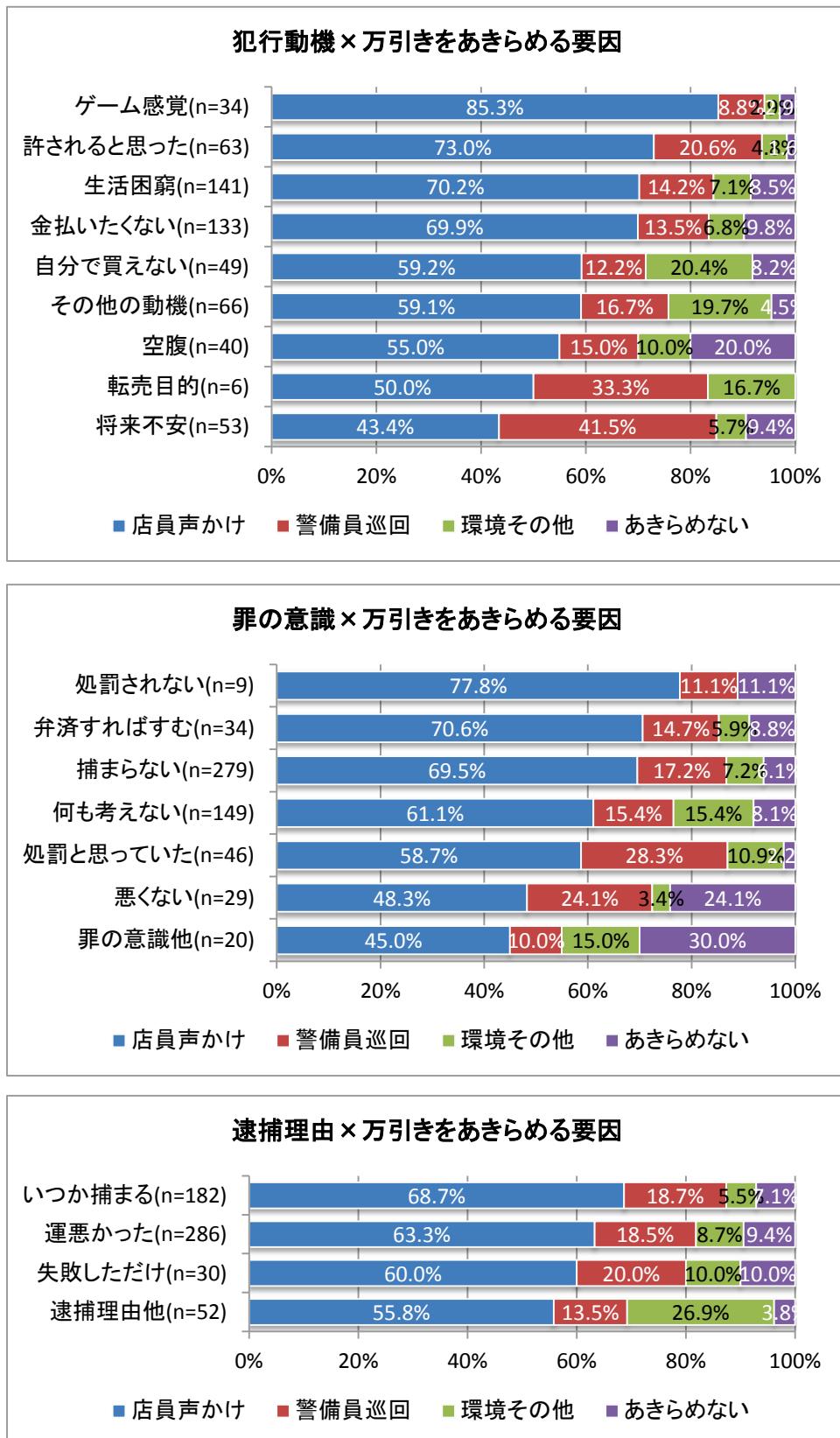
図 19 犯行選択理由 × 「万引きをあきらめる要因」



- 「動機原因」 : もっとも有効なのは「ゲーム感覚・好奇心」であった。「これくらい許されると思った」「生活困窮」「金を払うのが馬鹿らしい」でも有効であり、7割以上が「店員の声掛け」で万引きをあきらめるとしている。一方、「多少の金はあるが将来が不安（高齢者層に顕著に多い）」「転売目的」では、この割合が5割弱と少なくなる。
- 「罪の意識」 : もっとも有効なのは「小額だから処罰されないと思った」で、次いで「捕まっても弁済すれば済むと思っていた」「捕まると思っていなかった」と続く。一方、「その他」「悪いことだと思っていなかった」では、「店員の声掛け」で万引きをあきらめるとする被疑者等は5割弱と少なくなる。

- 「逮捕理由」 : もっとも有効なのは「いつか捕まると思っていた」、次いで「運が悪かった」「今回は失敗しただけ」の順である。

図 20 被疑者等の意識×「万引きをあきらめる要因」



## (2) 年齢・性別、犯行状況・内容

被疑者等の年齢性別、犯行状況や内容等に対し「店員の声掛け」等が有効かを検証するため、「万引きをあきらめる要因」と「年齢層（19歳以下を除く）×性別」「犯行時の所持金」「前歴」「犯行時刻」「店舗」「天気」「被害額」「被害品」とのクロス集計に基づく対応分析を行った。

19歳以下の「少年」を最終的に除外したのは、これまでの分析結果と同じく、「少年」が非常に特徴的であったために、他の変数の特徴が相対的に薄れてしまったためである。同様の理由で、犯行時刻の「1-5時」も除外している。

対応分析結果の同時布置図（c1×c2）を図21に示す。この図から読み取ることができる結果は、次のとおりである。

### 【店員の声掛け】

- 初犯で、所持金が2,000円未満と少ない被疑者等にとくに有効である。年齢層・性別による特徴は見られない（他の要因でも同じ）。
- 早朝のコンビニ、夕方のドラッグストア等で安価な品物を万引きするケースにとくに有効といえる。

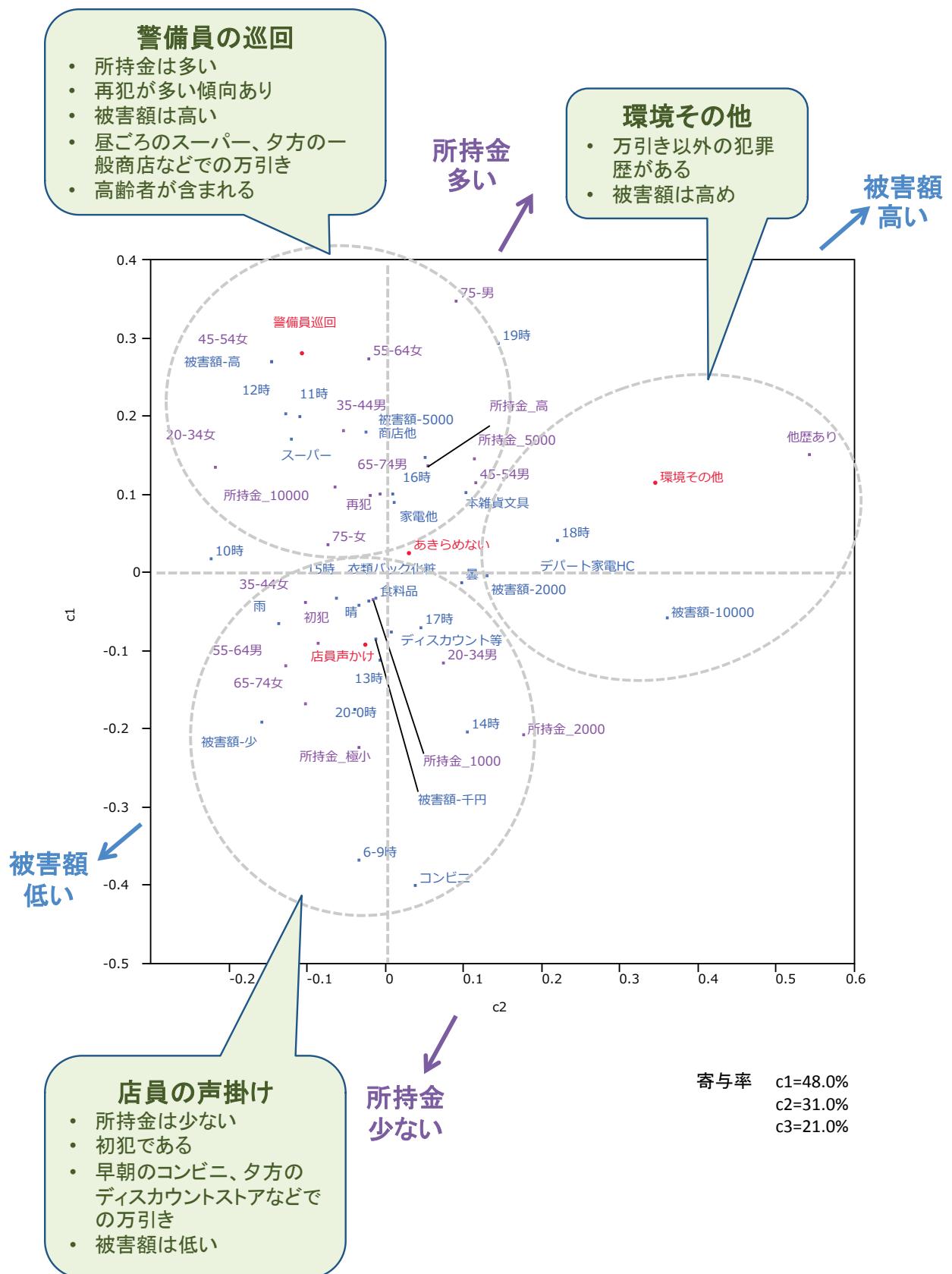
### 【警備員の巡回】

- どちらかといえば再犯で、所持金が比較的多い被疑者等に有効という傾向がみられる。成人女性、65歳以上の男性等に関連があるが、年齢層・性別による際立った特徴はない。
- 昼ごろのスーパー、夕方の一般商店等で、高価なものを万引きするケースに有効と考えられる。

### 【環境その他（防犯カメラ・万引き防止ゲート・万引き防止タグ・空箱の陳列・ワイヤーで固定・その他）】

- 万引き以外の犯罪歴がある被疑者等に対してとくに有効といえる。被害品は比較的高価である。

図21 「万引きをあきらめる要因」と「年齢層（19歳以下を除く）×性別」「犯行時の所持金」  
 「前歴」犯行状況・内容の対応分析結果（c1×c2 同時布置図）



### (3) 被疑者等の意識、犯行内容

特徴や差が見られなかった年齢性別、犯行時刻等を除き、被疑者等の属性や意識に着目した分析を行った。「万引きをあきらめる要因」と「犯行時の所持金」「前歴」「交友人數」「送致等区分」「店舗」「被害額」「被害品」「犯行決意時」「犯行時間選択理由」「犯行店舗選択理由」「動機」「罪の意識」「逮捕の理由」とのクロス集計に基づく対応分析である。

対応分析結果の同時布置図 ( $c_1 \times c_2$ ) を図 22 に示す。この図から読み取ることができる結果は、次のとおりである。

#### 【店員の声掛け】

- 初犯で、所持金が少なく交友人数が多い被疑者等に有効である（「少年」の特徴と重なる）。
- 「店員が無関心」である店舗を選択し、コンビニ等で、ゲーム感覚、好奇心で安価な品物を万引きするケースに有効といえる（「少年」の特徴と重なる）。
- 「店員が少ない」店舗を選び、1,000 円程度の食料品を万引きするケースにも有効と思われる。

#### 【警備員の巡回】

- 「多少の金はあるが将来が不安」が動機で、警備員がいない、死角が多い店舗を選択し、スーパー等で万引きするケースに有効といえる（「高齢者」の特徴と重なる部分が多い）。
- 「捕まれば厳しく処罰されると思っていた」被疑者等に有効だという傾向がうかがえる。

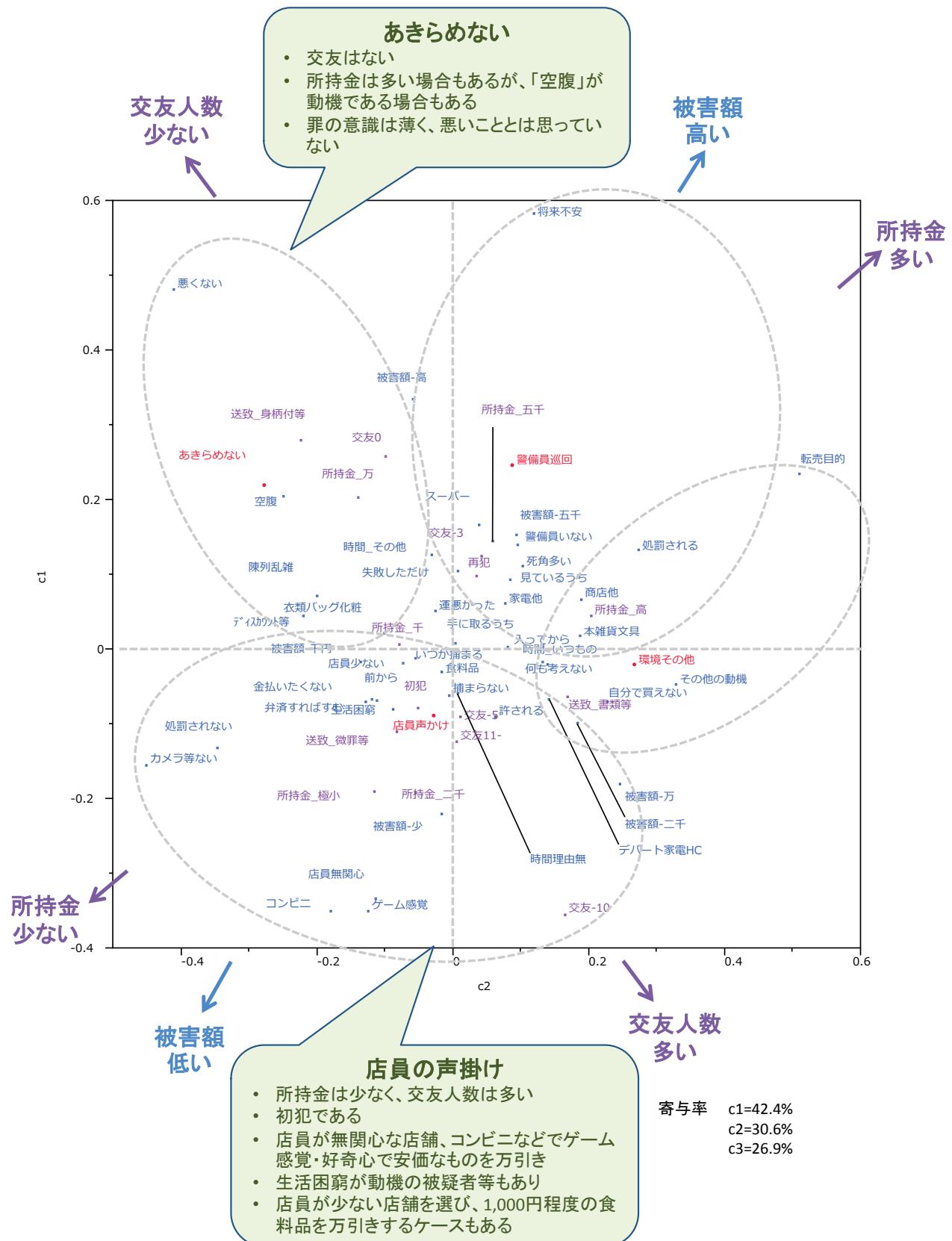
#### 【環境その他（防犯カメラ・万引き防止ゲート・万引き防止タグ・空箱の陳列・ワイヤーで固定・その他）】

- 「転売目的」「自分で買えない」等が動機で万引きするケースに有効という傾向がある。

#### 【何があつてもあきらめない】

- 交友がなく、「悪いことだと思っていなかった」被疑者等が多いのが特徴である。
- 空腹等が動機の場合がある。また、所持金が多く、高価なものを万引きする場合もある。

図 22 「万引きをあきらめる要因」と「交友人数」等個人属性、「被害額」等犯行内容、「動機」等被疑者等の意識の対応分析結果 (c1×c2 同時布置図)



## 4.まとめと考察

平成27年度の万引き被疑者等に関する実態調査結果より、万引き被疑者等の年齢層、性別による特徴、および「店員の声掛け」等、万引きを未然に防ぐ手立てがどう有効かを把握した。昨年度の分析結果、昨年度に別途実施した店舗ごとの意識・実態調査等の結果、および経験的にいわれている仮説とほぼ一致する安定的な結果であった。

今回新たに行った分析は以下のとおりであり、これにより「高齢者」の特徴の把握、「店員の声掛け」等の有効性がある程度把握できたのは新たな成果だといえる。

- 他の年齢層に比べてとくに特徴的な「少年」を省いた分析
- 「店員の声掛け」等と他の変数との関連を分析

得られた結果を以下にまとめる。

### 【高齢者】

- もっとも特徴的なのは犯行状況や内容である。高齢の被疑者等は、男女を問わず、自宅近く（犯行場所と被疑者住所が同一自治体）にある「店員が無関心」なスーパーで、1,000円～2,000程度の食料品を万引きする。犯行時刻はいつも買い物をしている時間帯である午前中の早い時間が多く、犯行日が荒天であることは比較的少ない（高齢者の万引き件数は、他の年代層に比べて雨や雪の日に少ない）。犯行を決意するのは「商品を手に取ったとき」である。以上より、日常生活の延長上での衝動的な万引きといえる。
- 犯行時、その商品を買えるだけの所持金を持っているが、「多少の金はあるが将来が不安」という動機で犯行におよぶことが多い。
- 高齢男性の被疑者等は、交友人数が少なく、独居で、相談できる人や生きがいがないという傾向がある。

### 【成人】

- 年齢層の差よりも男女差の方が大きい。
- とくに成人女性が特徴的で、デパートや家電量販店、ホームセンター等で、衣料品やバッグ、化粧品類等、高額な商品を万引きする傾向がある。犯行時の所持金は顕著に高いが、動機は「自分では買えない」が多い。また、交友関係があり、家族と同居し、家族等を生きがいとしているという傾向もある。
- 一方、成人男性は、交友関係が少なく、万引き以外の犯罪歴がある被疑者等が多い。自宅から離れた「たまたま行った場所」にある、陳列が乱雑で死角が多い店舗で万引きする傾向がある。

### 【少年】

- 他の年齢層に比べ、際立った特徴がある。
- 家族と同居しているが、「相談できる人」は家族以外の先輩や友人である。交友人数は顕著に多い。初犯が非常に多く、万引きに罰金刑があることは知らない。所持金は他の層に比べるとごくわずかである。
- 犯行を決意するのは「店に入る前から」が多く、その犯行は計画的といえる。動機は、所持金不足や空腹（男性）、ゲーム感覚・好奇心（女性）が多い。
- とくに男性は、陳列が乱雑で盗みやすそうな店舗を選択し、逮捕されたことを「今回は失敗しただけ」と考える傾向もある。
- 深夜・早朝に、コンビニやディスカウントストア等で、本や雑貨、家電等を万引きするのも少年の特徴である。これは20～30代の若い男性も同傾向である。

### 【店員の声掛け】

- 年齢性別を問わず、被疑者等の過半数が「店員の声掛け」で万引きをあきらめるとしており、もっとも効果的な対策といえる。とくに有効なのは、「初犯」「交友人数が多い」「所持金が少ない」被疑者等、「被害金額が少ない」ケースである。これらの特徴の多くは「少年」と等しい。

### 【警備員の巡回】

- 比較的高価な商品を「警備員がいない」等の店舗で万引きするケース、所持金が比較的多い被疑者等に有効という傾向がある。これらの特徴は「成人女性」に近い。
- また、「多少の金はあるが将来が不安」が動機であるケースにも有効という傾向もある。この特徴は「高齢者」である。

### 【環境その他（防犯カメラ・万引き防止ゲート・万引き防止タグ・空箱の陳列・ワイヤーで固定・その他）】

- 「転売目的」「自分で買えない」等が動機で、高価なものを万引きするケース、万引き以外の犯罪歴がある被疑者等に有効という傾向がある。

### 【何があってもあきらめない】

- 空腹等が動機である被疑者等、転売目的等で高価なものを万引きする被疑者等がいる。共通するのは、交友人数が非常に少ないと、「悪いことだと思っていた」ケースが多いことである。



## 万引き被疑者に関する実態調査結果



## 万引き被疑者に関する実態調査結果

### 第1 調査の概要

#### 1 調査の目的

警視庁では、平成24年4月2日から万引き被疑者等調査システムの運用を開始しており、当システムに入力されたデータを調査分析し、万引き被疑者及び触法少年（以下「万引き被疑者等」という。）の犯行動機、生活状態、犯罪傾向等を恒常に把握し、万引き被疑者等を取り巻く社会環境等と犯行の関係、犯行を思いとどまる要因等について明らかにし、今後の万引き防止対策に資することを目的とする。

#### 2 データ収集方法の見直し

昨年の調査結果を分析した学識経験者の助言を受け、より正確な分析をするため、データ収集方法について以下のとおり見直した。

〈従来〉

警察署毎に各世代（少年・成人・高齢者）1件以上のデータを収集

〈変更後〉

警察署毎にデータ収集実施月（1カ月間）指定。

指定月に全ての取扱いについてデータを収集。

#### 3 調査期間

平成27年4月1日から平成28年3月31日までの1年間

#### 4 調査主体

前記期間中に、検挙・補導した万引き被疑者719件

□調査主体内訳

全719件中、少年169件（男性131件、女性38件）、成人359件（男性199件、女性160件）、高齢者191件（男性89件、女性102件）であった。



## 5 万引き事案の現況(平成27年中) 【※数値～警視庁統計に準拠】

### (1) 万引き認知・検挙件数及び検挙・補導人員

前年に比べて認知件数、検挙件数、検挙・補導人員が減少している。

なかでも検挙・補導人員は、全ての世代で減少傾向が見られるものの減少率で比較すると、高齢者世代は他の世代に比べ減少率が低いため、各世代の世代別占有率では、高齢者世代のみ増加している。

	H27年	H26年	増減	増減率	占有率(H27年)	占有率(H26年)
認 知 件 数	15,371	15,505	-134	-0.9%		
検 挙 件 数	9,269	9,931	-662	-6.7%		
検 挙 ・ 補 導 人 員	9,919	10,391	-472	-4.5%		
少 年	2,043	2,155	-112	-5.2%	20.6%	20.7%
小 学 生	506	435	71	+16.3%	5.1%	4.2%
中 学 生	656	827	-171	-20.7%	6.6%	8.0%
高 校 生	592	560	32	+5.7%	6.0%	5.4%
大 学 生	64	66	-2	-3.0%	0.6%	0.6%
そ の 他	51	87	-36	-41.4%	0.5%	0.8%
有 職 少 年	60	67	-7	-10.4%	0.6%	0.6%
無 職 少 年	114	113	1	+0.9%	1.1%	1.1%
成 人	5,070	5,406	-336	-6.2%	51.1%	52.0%
20歳以上 35歳未満	1,808	1,858	-50	-2.7%	18.2%	17.9%
35歳以上 50歳未満	1,694	1,833	-139	-7.6%	17.1%	17.6%
50歳以上 65歳未満	1,568	1,715	-147	-8.6%	15.8%	16.5%
高 齢 者	2,806	2,830	-24	-0.8%	28.3%	27.2%
65歳以上 75歳未満	1,412	1,503	-91	-6.1%	14.2%	14.5%
75歳以上	1,394	1,327	67	+5.0%	14.1%	12.8%

### (2) 検挙・補導人員占有率の各歳別比較

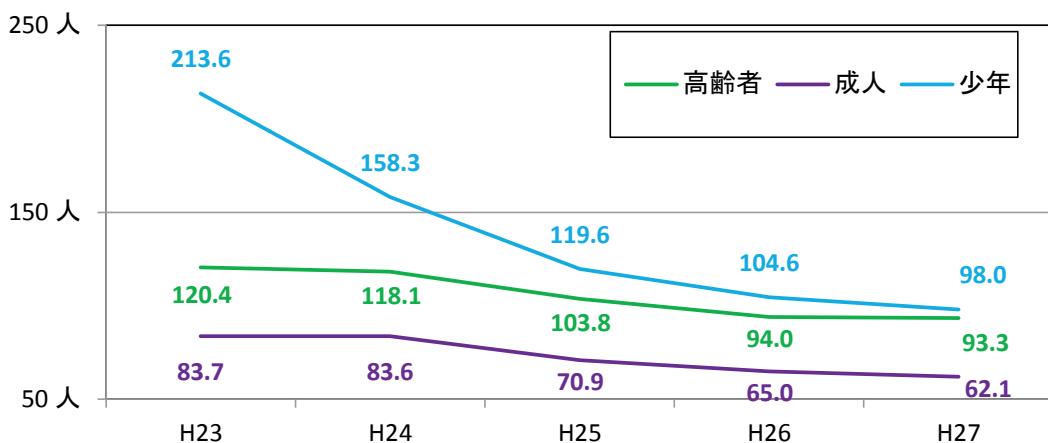
□年齢別上位10傑

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
H16	16	15	17	14	20	19	21	18	22	24
H23	14	15	16	13	17	18	19	63	67	61
H24	15	14	16	13	17	18	69	64	63	70
H25	15	14	16	13	17	65	69	70	18	64
H26	15	14	16	13	66	17	73	20	69	65
H27	16	15	14	13	21	20	17	66	67	71

平成23年から平成27年の5年間と平成16年の年齢別上位10傑を比較すると、いずれも上位は「13～17歳」で占められているが、平成16年の上位10傑は「24歳以下」で占められているのに対し、平成23年から平成27年の上位10傑には「60歳代、70歳代」が含まれている。

### (3) 人口比による世代別検挙・補導人員 (人口10万人あたりの検挙・補導人員)

人口移動による世代間格差を排除した、世代別検挙・補導人員を検証するため、総務省統計局資料「人口推計」の各年10月1日現在のデータをもとに、世代別人口10万人当たりの検挙・補導人員を算出した。



※人口データ出典「総務省人口推計」

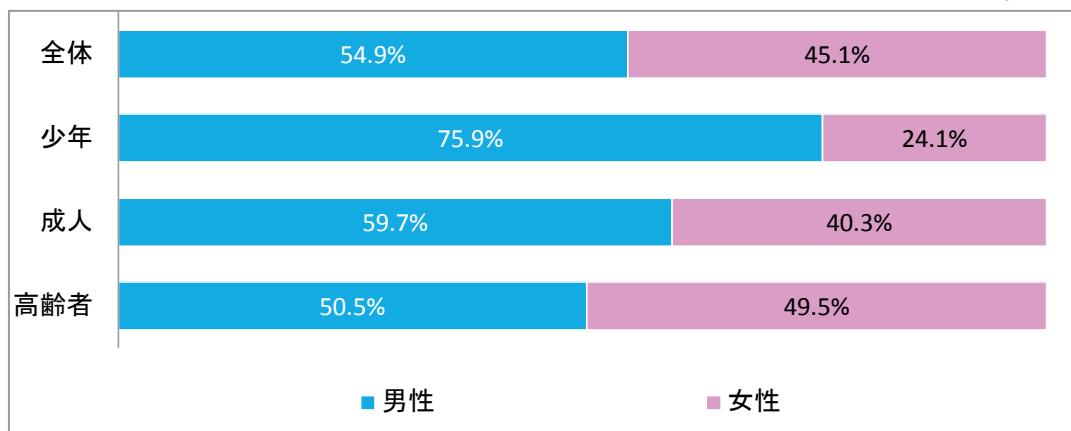
人口比の検挙者数は、少年、高齢者、成人の順に多く、検挙・補導人員占有率（成人、高齢者、少年）と順位形勢が逆転する。

また、少年と高齢者の関係では、平成24年以降、検挙・補導人員占有率では少年と高齢者が逆転したものの、人口比における検挙者数では、未だに少年が上位に位置している。

これらの状況から、少年に関しては過去5年間の減少傾向は著しいものの、世代別で比較すると最上位であり、今後も継続して重点的な対策が必要である。また、高齢者に関しても、平成23年に少年と高齢者の90ポイント(人)以上の差が、平成27年では約5ポイント(人)の差に近接しており、人口比からみても高齢者対策への取組は急務であるといえる。

### (4) 検挙・補導人員の男女比

検挙・補導人員は男性の割合が多いが、世代別でみると、少年、成人、高齢者と年齢を重ねていくほど、女性の割合が多くなる傾向がある。



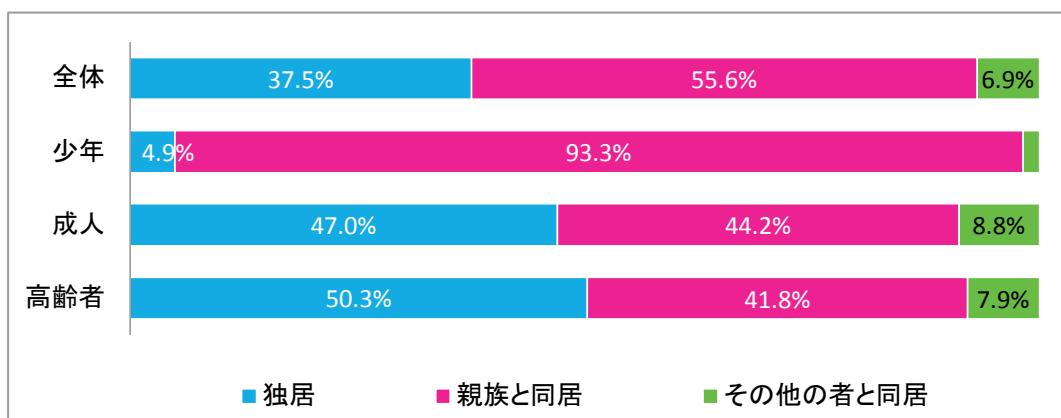
## 第2 調査状況(単純集計・クロス集計)

### 1 生活状況

#### (1) 同居者の有無

少年は「親族と同居」、高齢者は「独居」の比率が高い。

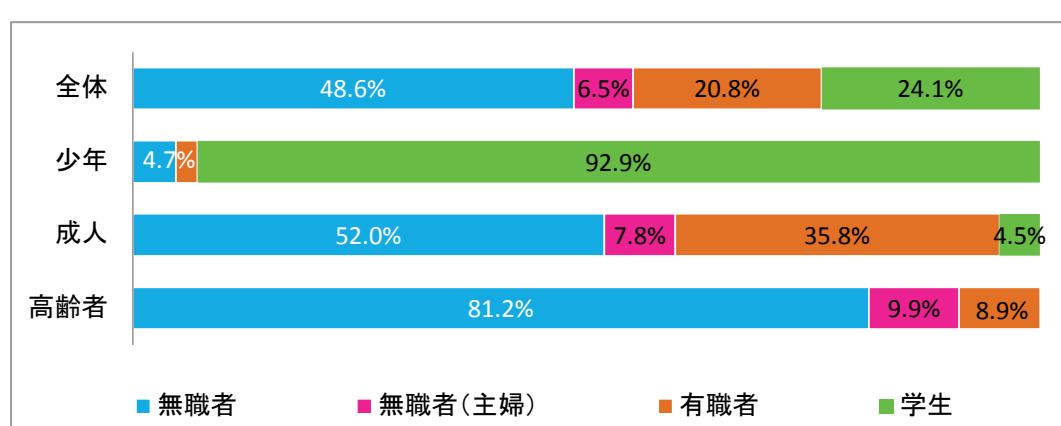
(有効回答数、少年164件、成人328件、高齢者177件)



#### (2) 就労・雇用形態等

高齢者は「無職者(主婦を含む)」、少年は「学生」の割合が高い。

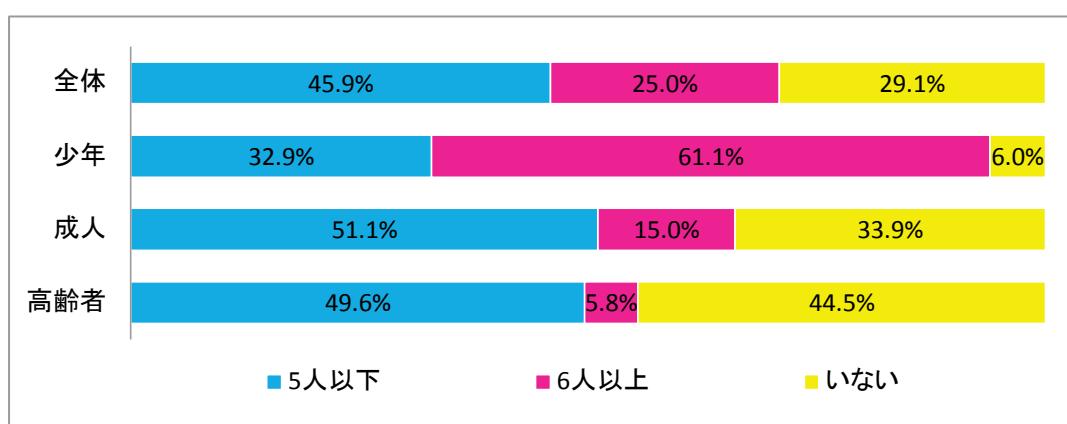
(有効回答数、少年169件、成人359件、高齢者191件)



#### (3) 交友関係

各世代とも「交友関係がある」割合が高いが、高齢者ほど「いない」と回答する割合が高い。

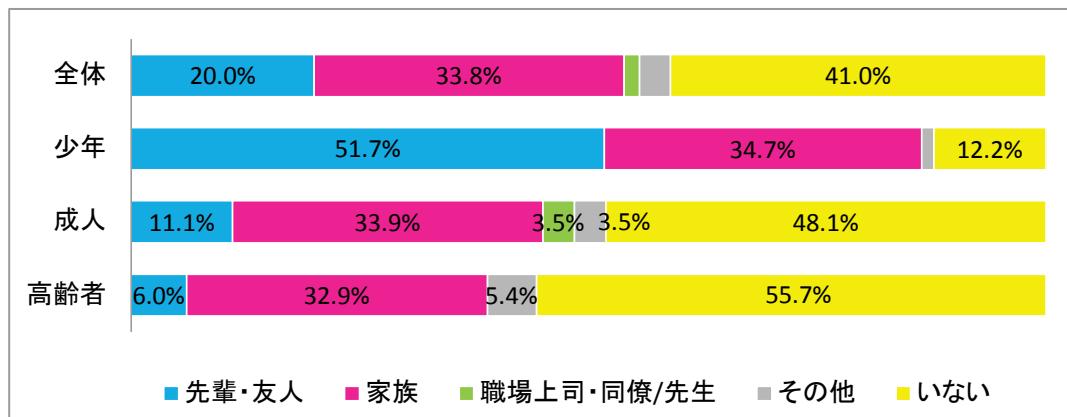
(有効回答数、少年137件、成人274件、高齢者149件)



#### (4) 相談できる人

少年は、「先輩・友人」の割合が高く、成人、高齢者は「いない」割合が高い。

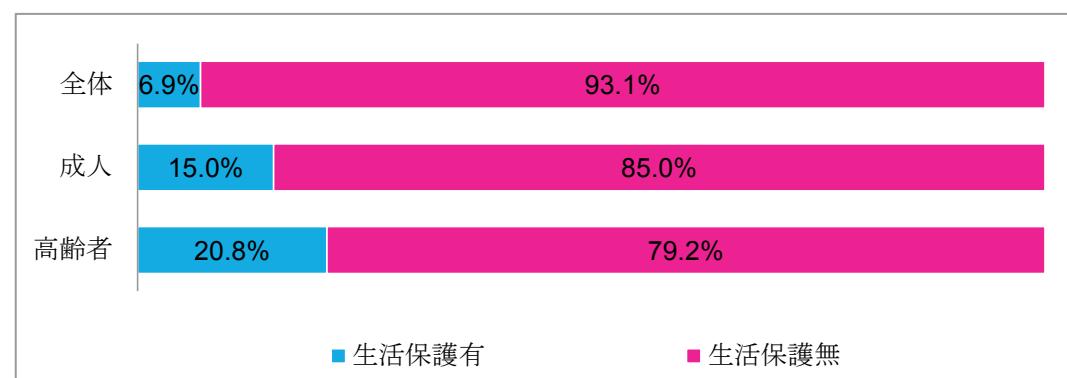
(有効回答数、少年149件、成人289件、高齢者147件)



#### (5) 生活保護受給者

少年にあっては、生活保護受給者はいなかった。

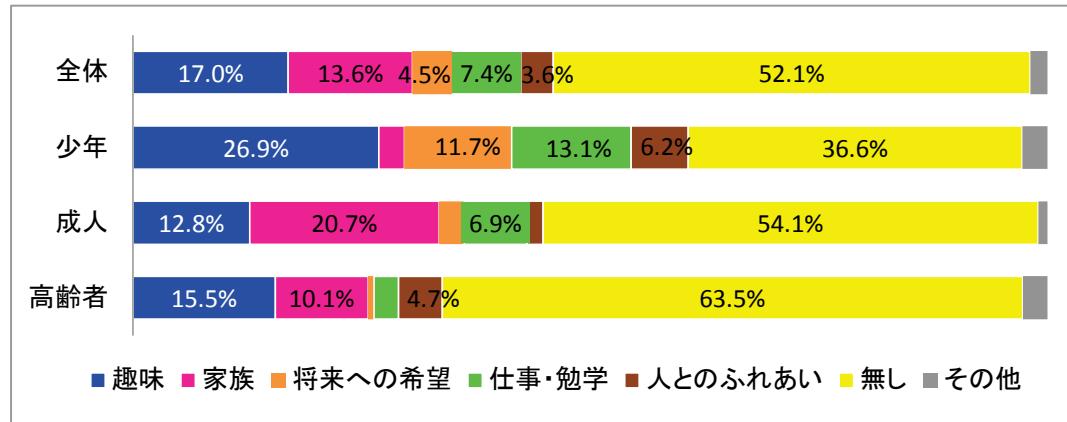
(有効回答数、成人 314 件、高齢者 168 件)



#### (6) 生き甲斐

少年は、「趣味」、「仕事・勉学」の割合が高く、成人、高齢者は「無し」の割合が高い。

(有効回答数、少年 148 件、成人 290 件、高齢者 145 件)

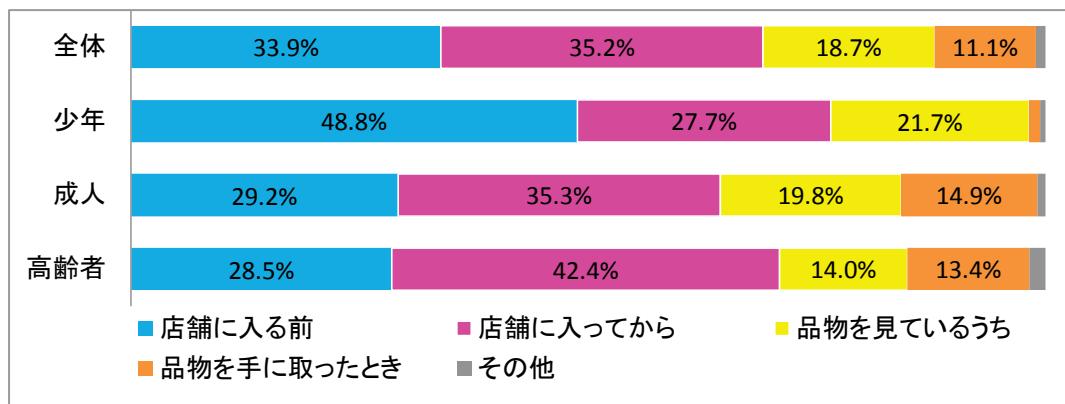


## 2 犯行態様

### (1) 犯行を決意した時

少年は、「**店舗に入る前**」の割合が高く、成人、高齢者は「**店舗に入つてから**」の割合が高い。

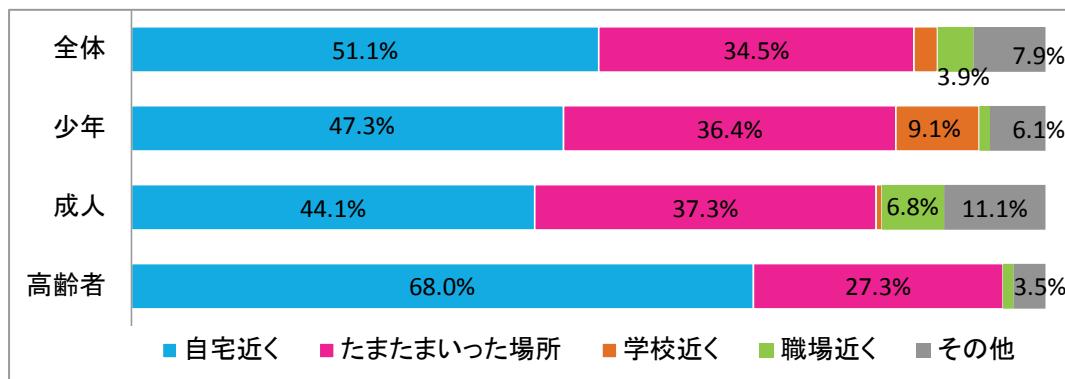
(有効回答数、少年 166 件、成人 329 件、高齢者 172 件)



### (2) 犯行地域選定理由

各世代とも「**自宅近く**」の割合が高い。

(有効回答数、少年 165 件、成人 324 件、高齢者 172 件)

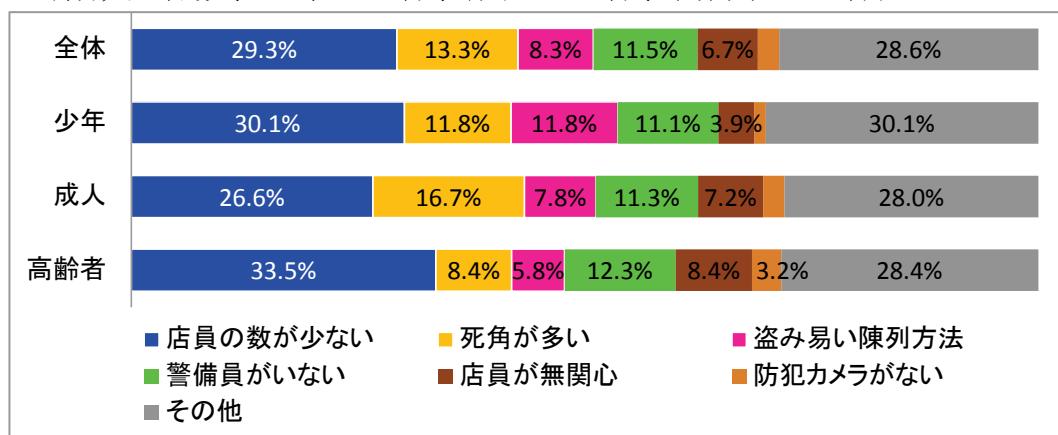


### (3) 犯行場所(店舗)選定理由

各世代とも「**店員の数が少ない**」の割合が高い。

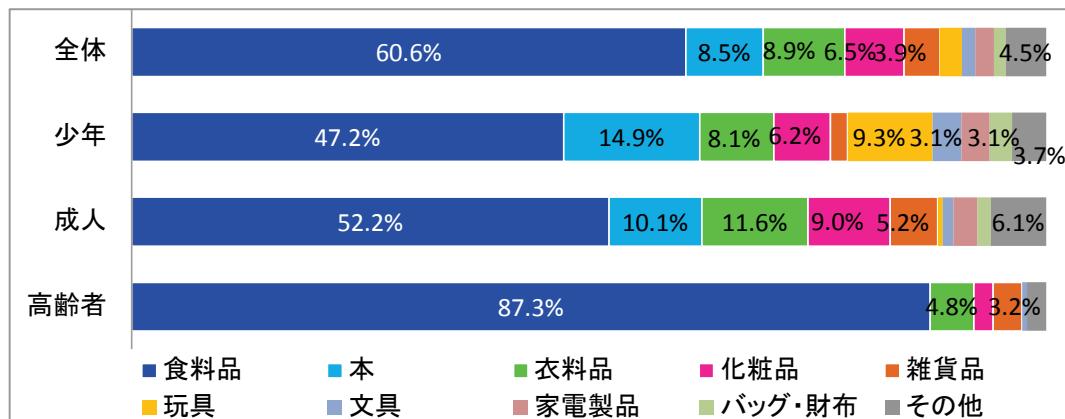
次いで、少年、成人は、「**店内環境に関する要因**」が高く、高齢者は「**対人環境に関する要因**」の割合が高い。

(有効回答数、少年 153 件、成人 293 件、高齢者 155 件)



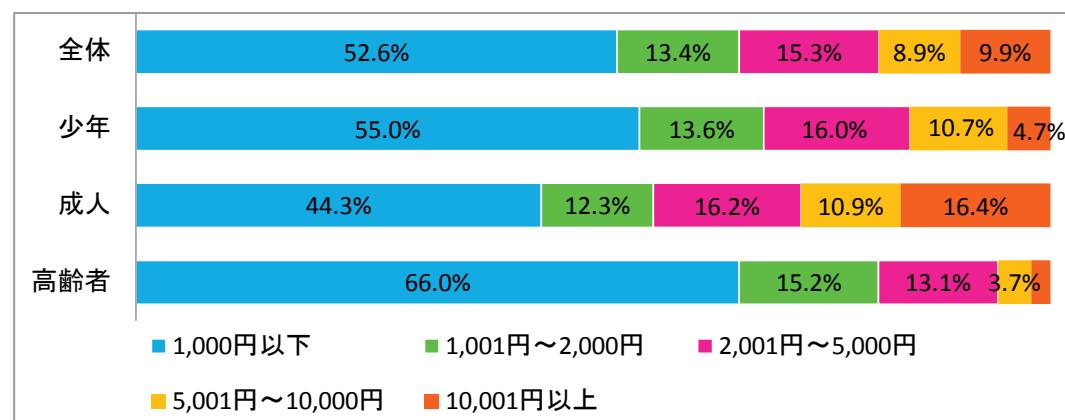
#### (4) 被害品

各世代とも「**食料品**」の割合が高く、高齢者はその傾向が顕著である。  
(有効回答数、少年 161 件、成人 345 件、高齢者 189 件)



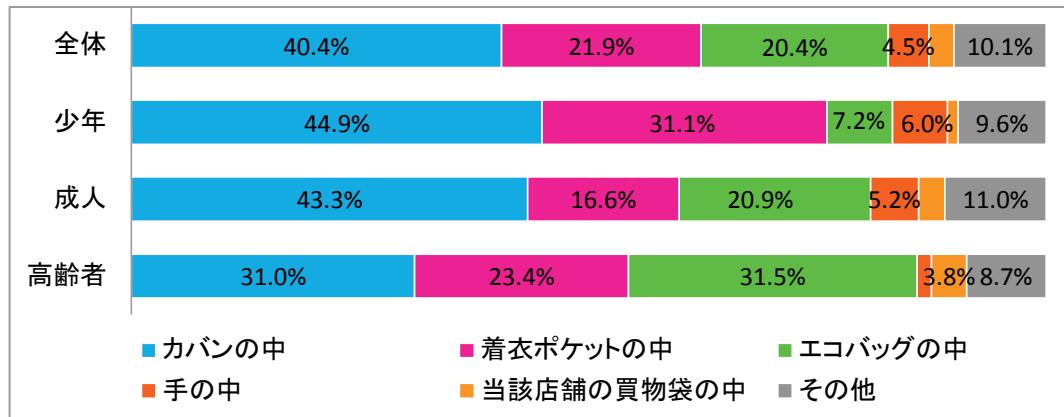
#### (5) 被害額

各世代とも「**1,000 円以下**」の割合が高い。  
(有効回答数、少年 169 件、成人 359 件、高齢者 191 件)



#### (6) 被害品の隠匿場所

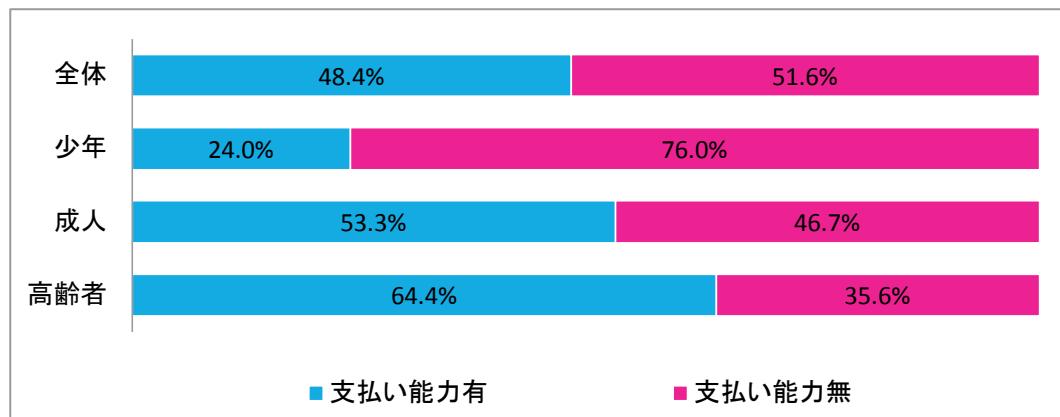
各世代とも「**カバンの中**」の割合が高い。  
高齢者は、他の世代と比較すると「**エコバッグ**」の割合が高い。  
(有効回答数、少年 167 件、成人 344 件、高齢者 184 件)



## (7) 支払い能力の有無（検挙時の所持金と被害額を基準に算定）

少年は、「支払い能力無」の割合が高く、成人、高齢者は、「支払い能力有」の割合が高い。

(有効回答数、少年154件、成人291件、高齢者146件)

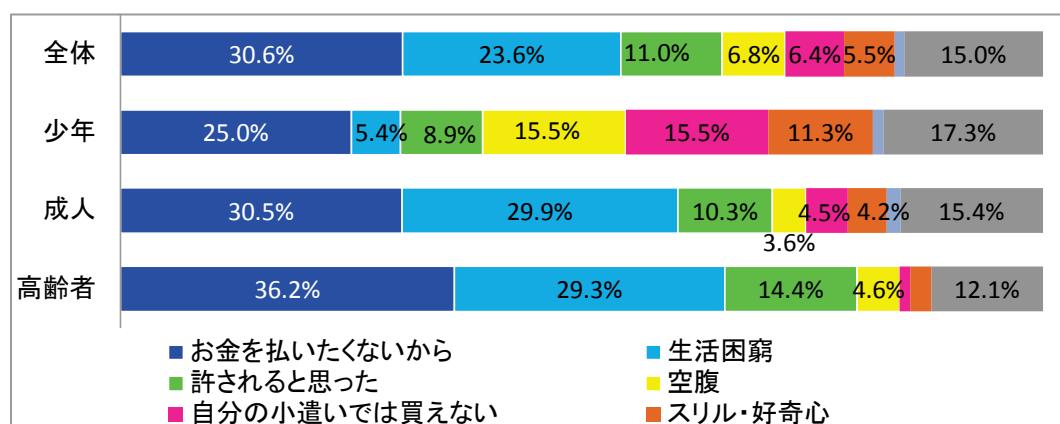


## 3 被疑者の意識

### (1) 犯行動機・原因

各世代とも「お金を払いたくないから」の割合が高い。

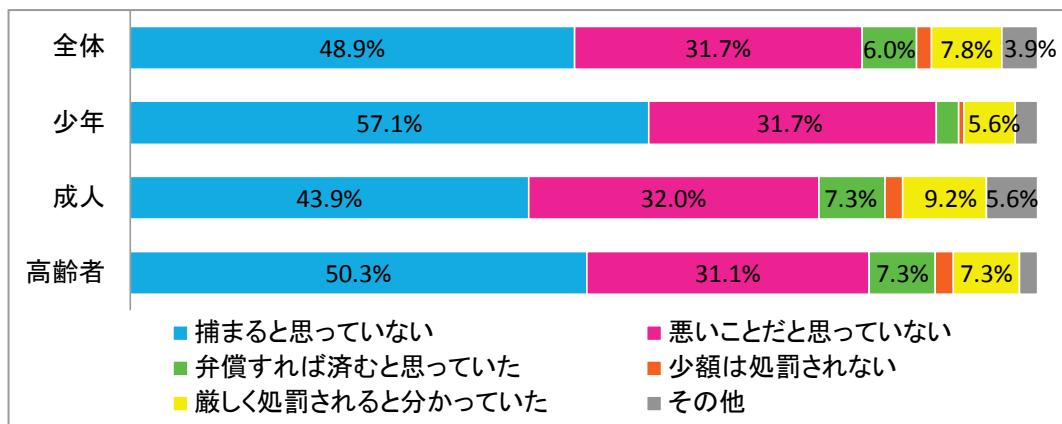
(有効回答数、少年168件、成人331件、高齢者174件)



### (2) 罪の意識

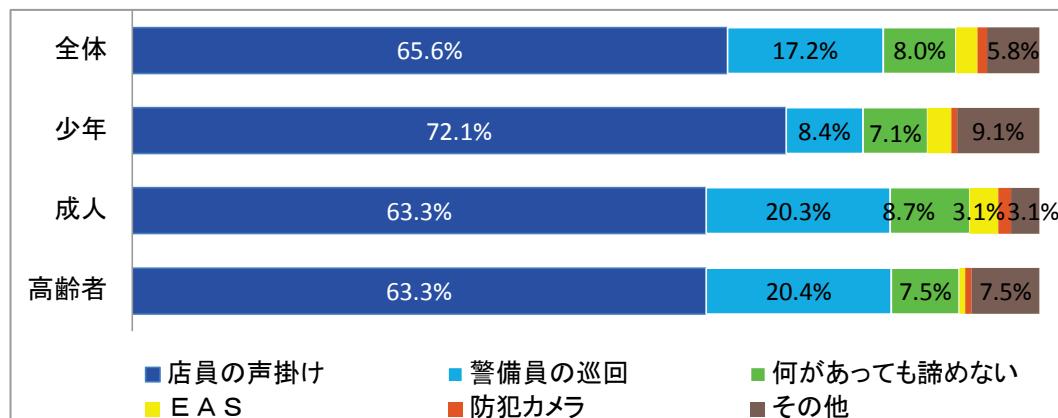
各世代とも、「捕まると思っていない」、「悪いことだと思っていない」割合が高い。

(有効回答数、少年 161 件、成人 303 件、高齢者 151 件)



### (3) 万引きを諦める原因

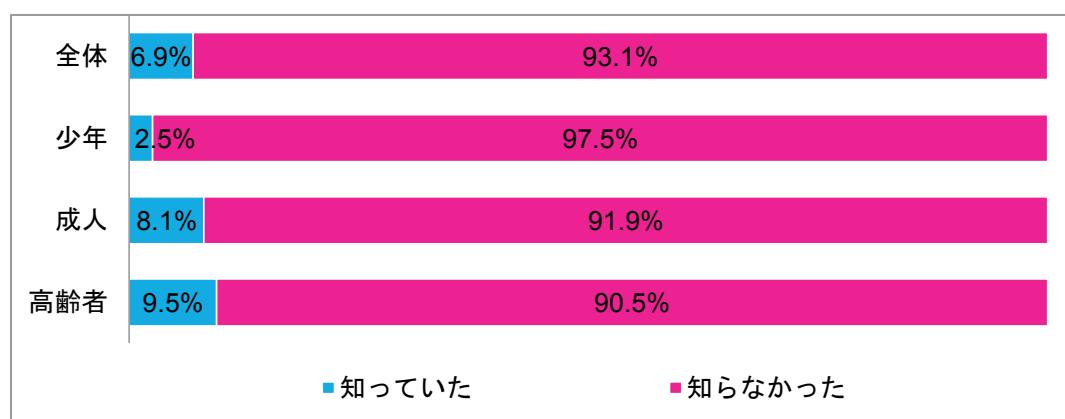
各世代とも「店員の声掛け」、「警備員の巡回」の順に割合が高い。  
 (有効回答数、少年 154 件、成人 286 件、高齢者 147 件)



## 4 被疑者の万引きに対する知識

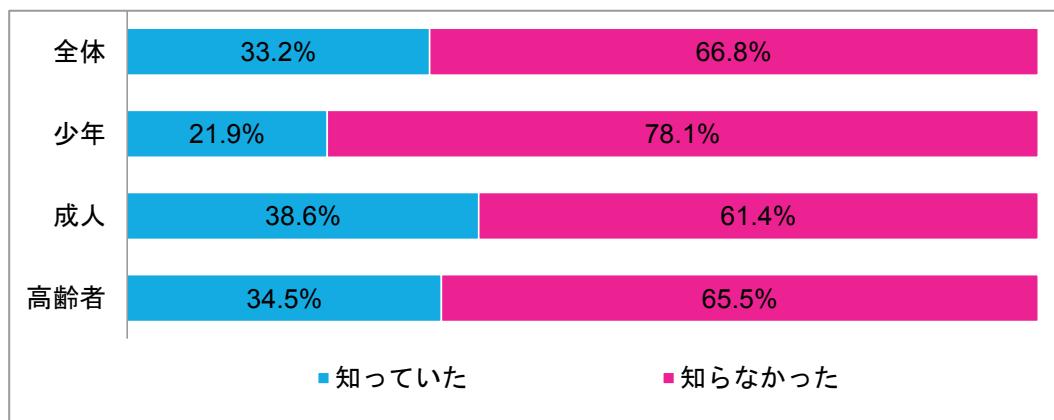
### (1) 万引き全件届出の知識の有無

各世代とも「知らなかった」割合が高い。  
 (有効回答数、少年 157 件、成人 283 件、高齢者 137 件)



### (2) 万引きの刑罰の知識の有無

各世代とも「知らなかった」割合が高い。  
 (有効回答数、少年 145 件、成人 285 件、高齢者 155 件)







## 万引き被疑者等に関する実態調査分析報告書 (平成27年度調査)

平成29年2月印刷

「東京万引き防止官民合同会議」事務局  
〒100-8929  
東京都千代田区霞が関2丁目1番1号  
警視庁生活安全部 生活安全総務課 生活安全対策第三係  
電話 03-3581-4321 (警視庁代表)  
警視庁HP <http://www.Keishicho.metro.tokyo.jp/>

